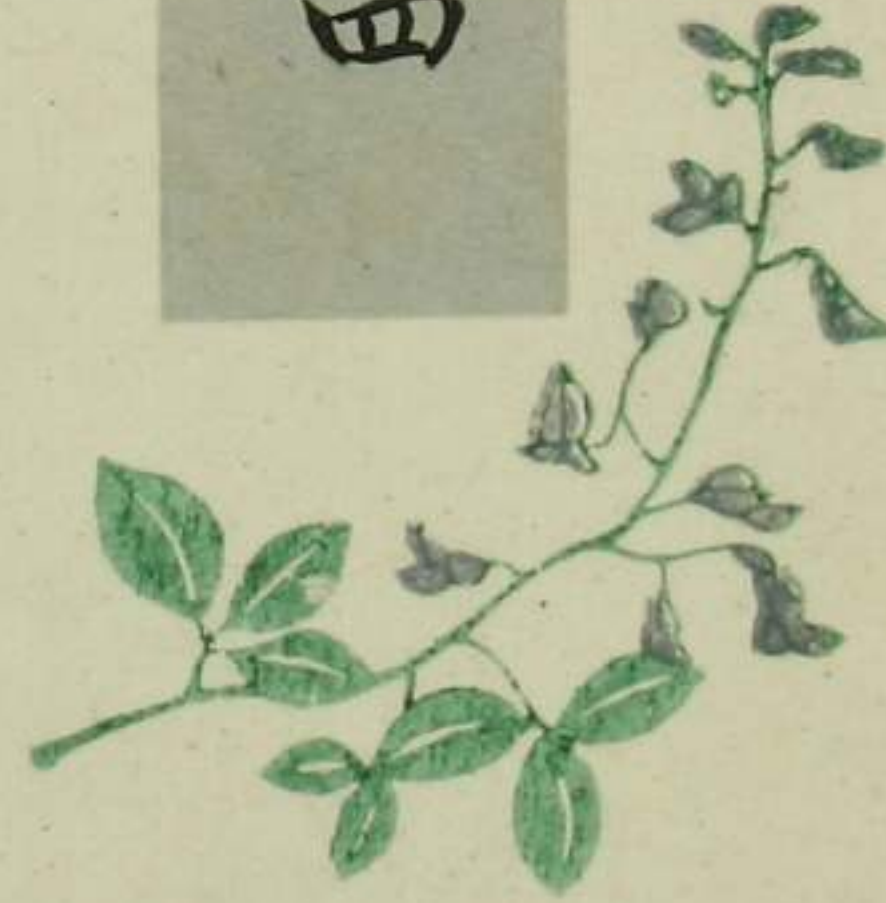




八江萩名所園画

四



ル 4
3643
4



門凡  
號 3643  
卷 4

八江款名所圖画肆之卷

目錄秋之部上

金谷天滿宮

同圖

同祭禮之圖

長藏寺

三江晴嵐

一本松荒神社

蓮正寺

橋本大橋

濡佛之圖

今宮八幡宮

德隣寺

養學院

隆景寺

秀岳院

滿行寺

吉見橋

安養寺

庚申坊

慶安橋

水車之圖

田中荒神社

同圖

金毘羅大權現社

法光院

同圖

緒機屋町

蓮池院

同圖

西光寺

一乘院

昭和廿三年  
二月二十日  
具

明圓寺 相場所之圖 客屋之圖 清光寺

同園 光善寺 光明坊 藤江落雁 三千坊

瑞玄山報恩寺 端坊 法華寺 花松坊

埵天神社 長壽寺

以上四拾五條

八江菰名所圖画四之卷

木梨恒充 著述

祭秋之部上 五日 山縣篤藏 補正

金谷天満宮社 椿町大城戸の所あり舊地六當所より少

後の方より是を古天神といふ 古天神地横山氏某の居宅にて前園にまつる所の鎮守天神の業祠

を引けるものありとをら 社傳云曰往昔文治二年の春鎌倉右府

將軍頼朝卿大日本總管領の時佐々木四郎高綱長門國守

護職として當所へ下向せしきり人民安全のためとして同

七月十三日筑州太宰府より勸請せし所にて一國一社乃

總鎮守とせし神社ちりといふ後改めて長門の國第三の

宮といへりとも中ニ就き廢類して久かりを享保年  
間ニつくり公より御勸請ありて本社田廓御修造成てい  
よく結構を備へられり初の地 濁り淵別當ハ陽明山正燈院にて  
本地佛十一面觀音臨家大照院ニ屬す當寺ハ始め藝州吉  
田ニ在て知足院といふ夫より山口常榮寺の境内ニ遷り又  
轉して享保年中當社の別當となまり  
祭る神菅公の御本像ハ泰巖公の御守護神なりと云  
祭禮ハ十月十五日より十六日なり此日神輿御旅所へ御  
幸ありて湯立神樂舞等を執行り供奉のまじくを以

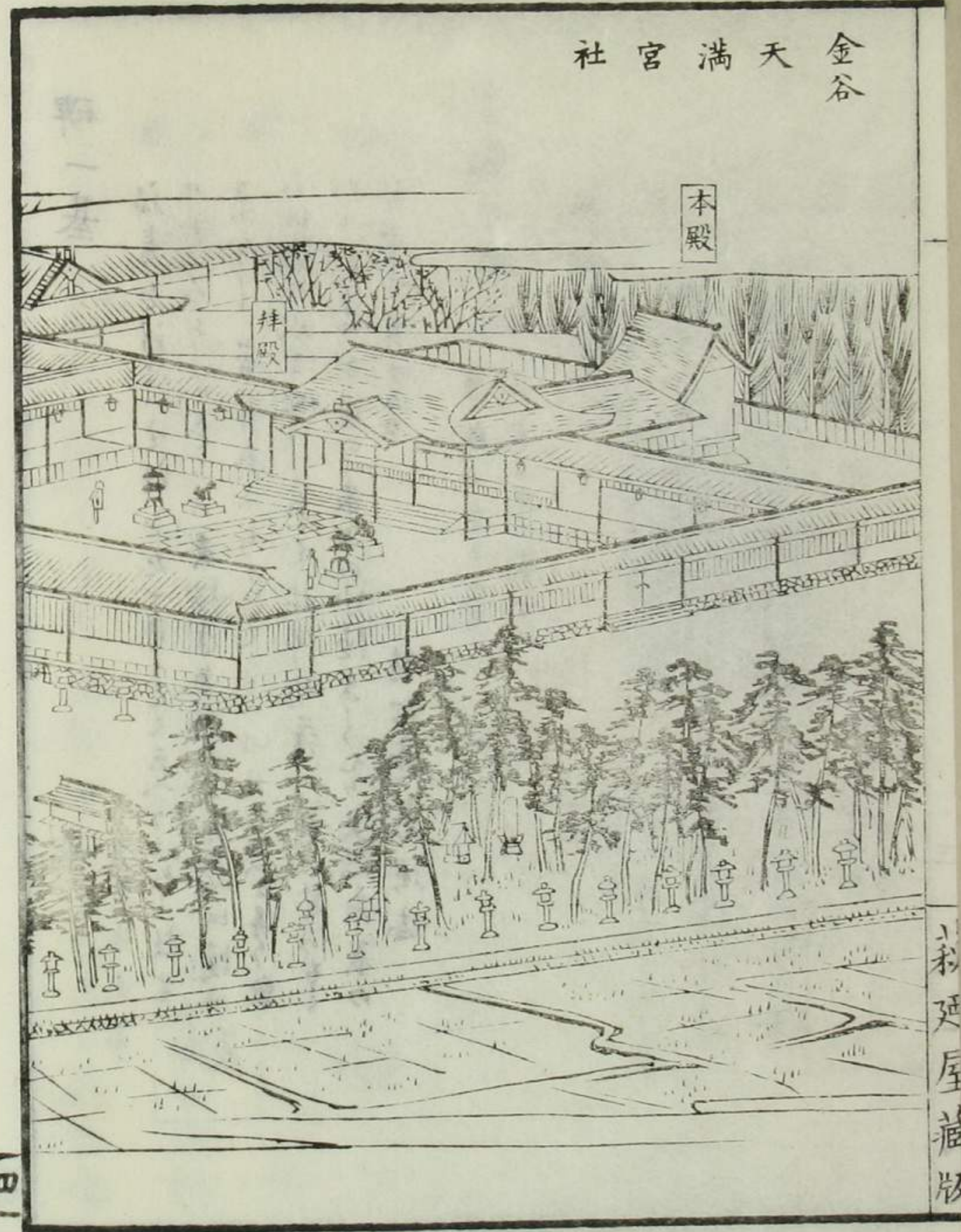
とんは玉鉾を持てるわれハ白幣を捧ぐるあり隨身華  
美子ハ涼傘ニ花をかき輿に乗れる別當馬ニ跨り大行  
司小行司或ハ平安湖の手廻備とて對管ニ行列を正し六  
尺の奴子ハ脛高くかけて七五三を踏らる寸まハ先歩  
行の往襲ハ声傘回し艸履舞の業其外市中の町より  
あつひハ屋臺山車の色々善盡し美尽し装ひ行さぬはす  
う道路も耀くつくりひきこきこらるハ實ニ太平の美  
りて市中も裏く計りたる形勢なり

有栖川幸仁親王の真筆

同御  
寄附



金谷 天満宮 社



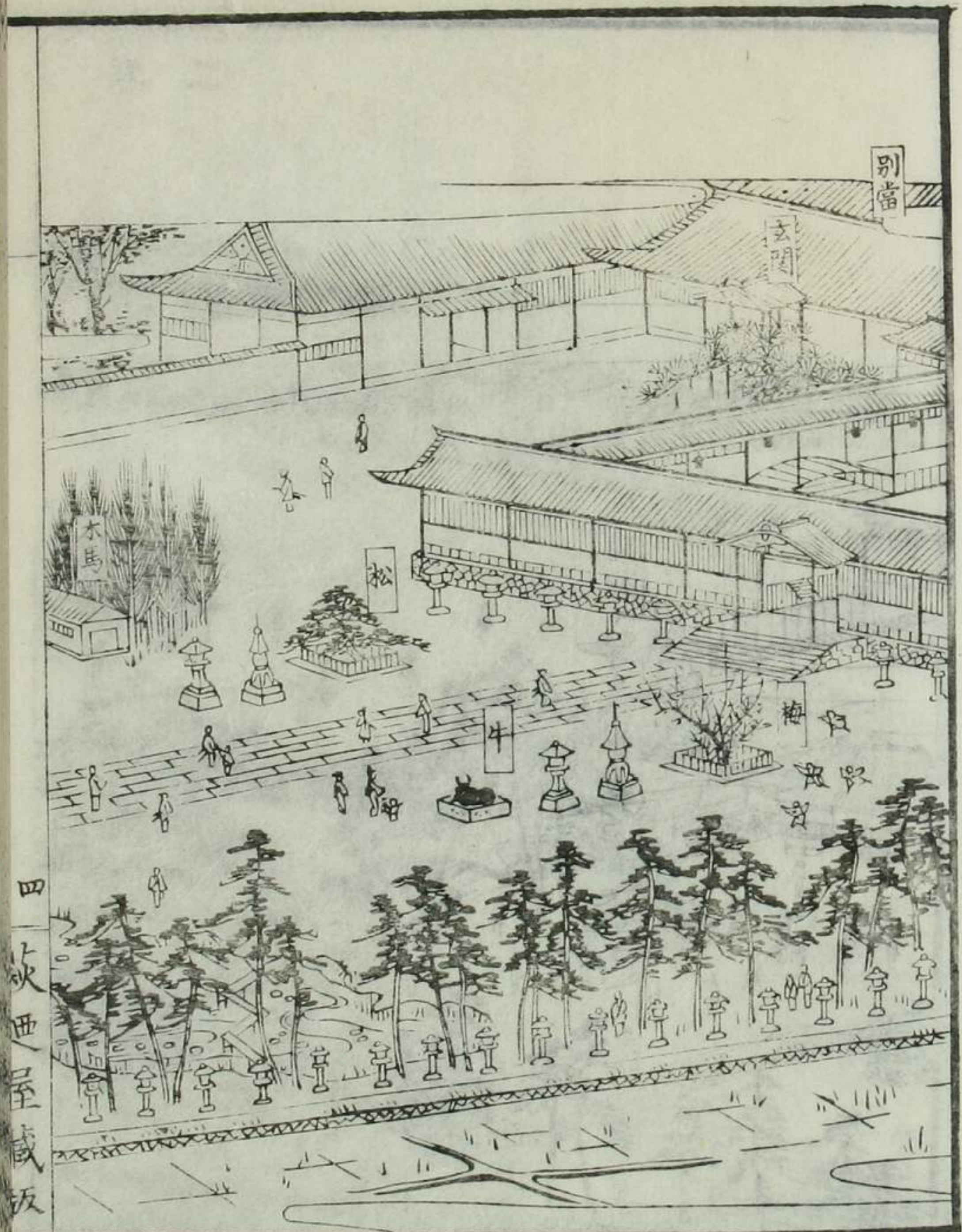
本殿

拜殿

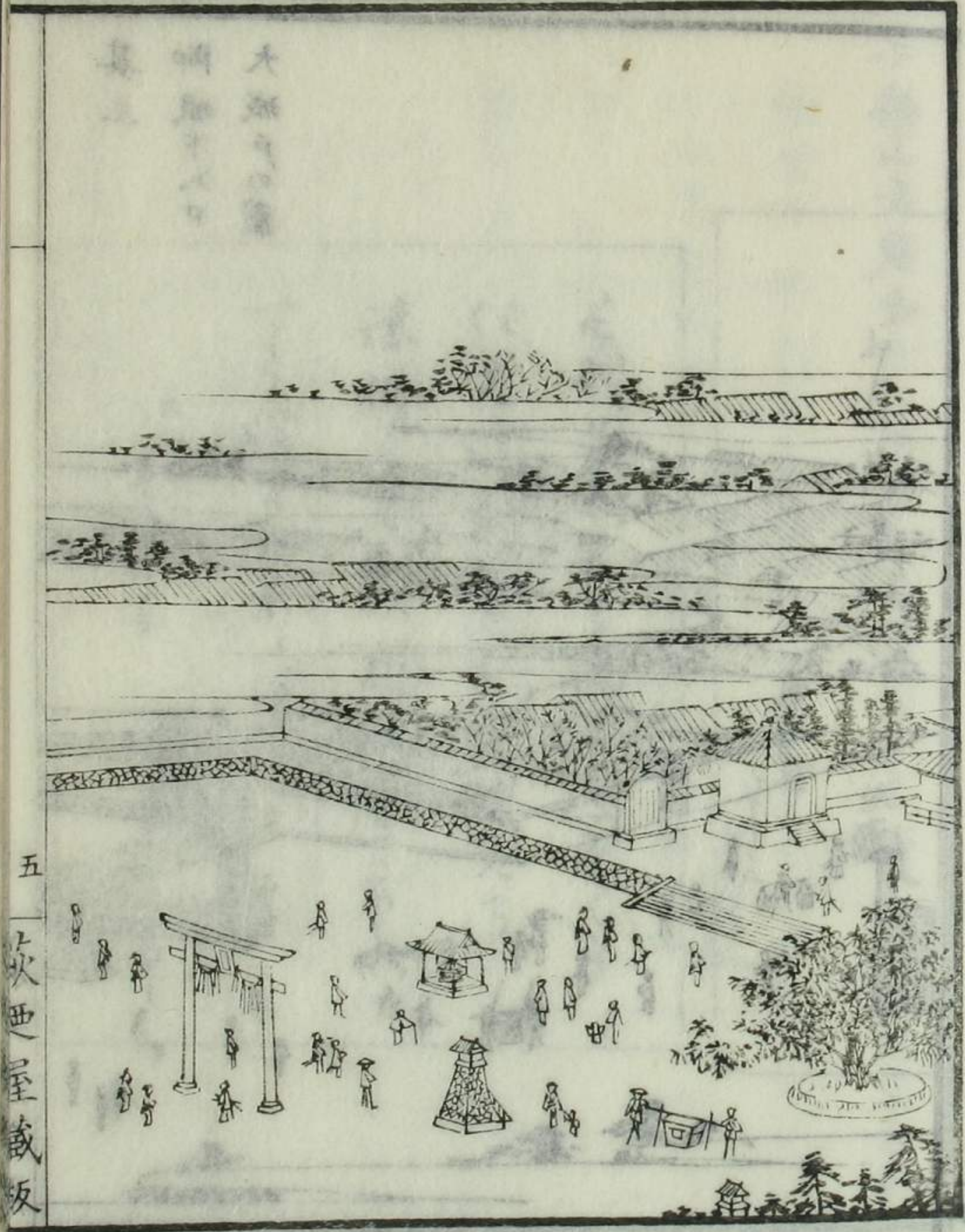
新延屋藏版

甲

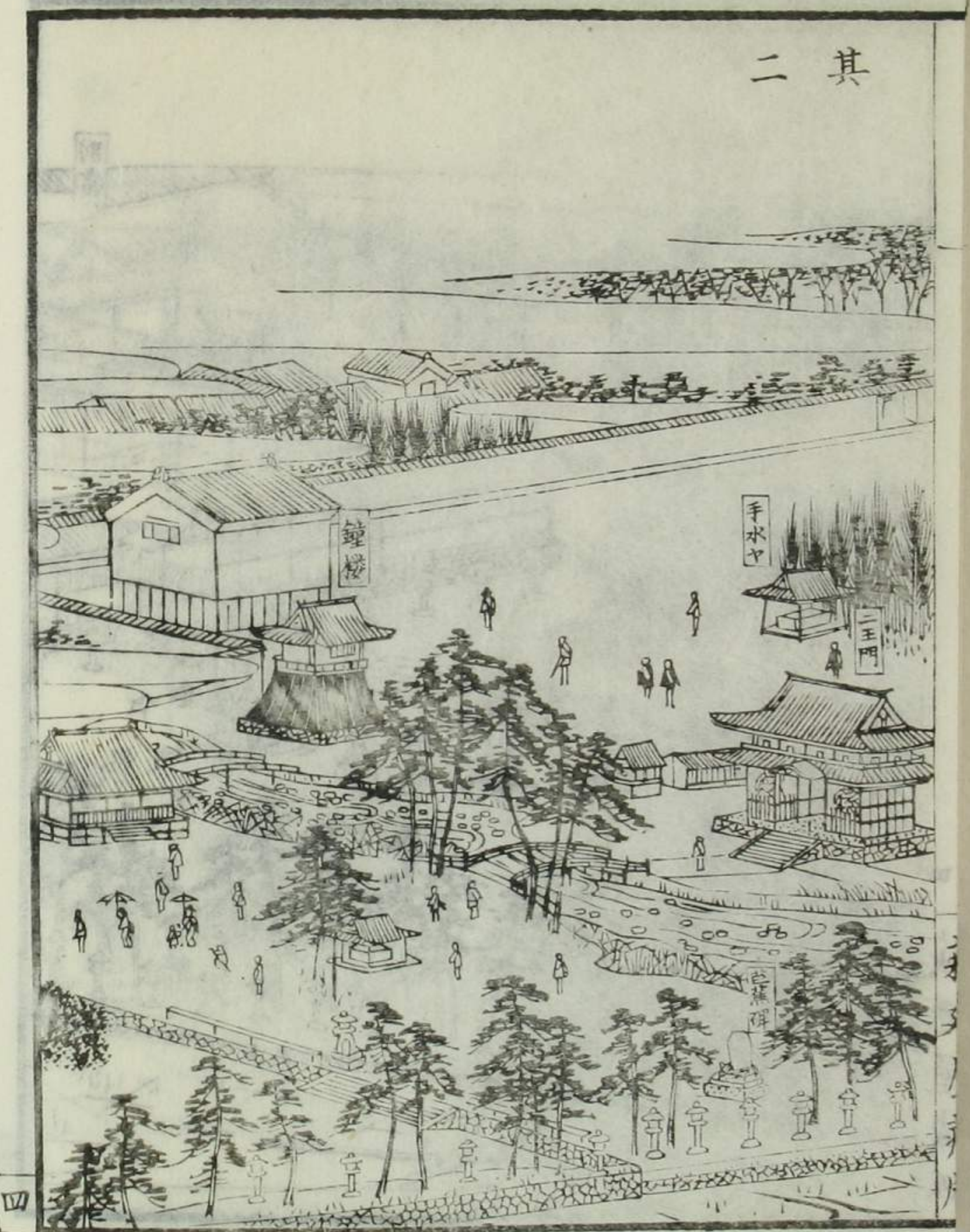
別當



四ノ上 西屋藏版

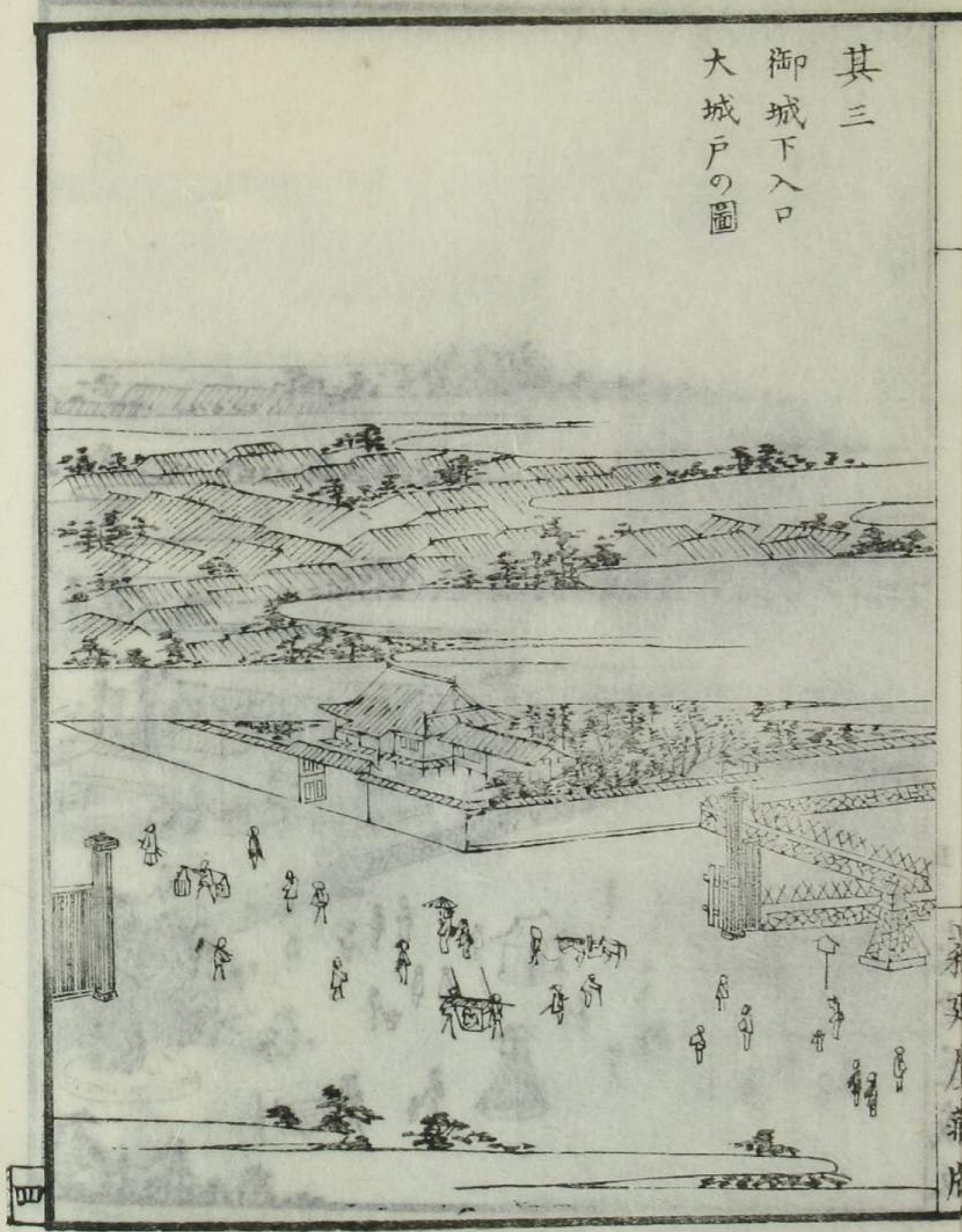


五  
次  
迎  
屋  
截  
坂



四

其三  
御城下入口  
大城戸の圖



永静山壽願寺

卯月廿八

西条圖

在事

長列第五段丁満古造各々

仁先院判并高父伊賀守

讓怖く旨裁利被造り高小

つる後より安し

天正十一年  
七月廿百

釋元



太宰府大島居一行の寫

西出るる山寺に為味  
 毛の心身 毛の心身  
 多居年中 細作の結  
 何一何の作  
 元文三年三月廿日  
 系山院系目場刻  
 大島居

永椿山長藏寺 同所より一丁より南にあり濟家の禪

宗として天樹院に属し當寺開創を正屋慶因和尚と号し

初當寺ハ曹洞宗として二世信明座元慶崔和尚より當宗に遷

る本尊聖觀音ハ惠心僧都の作にむろの濁洲一本松の所

かりを慶長年間うつさまゝとぞ 妙松雲院の地と代り

觀音堂 本堂の前よりあり本尊聖觀音ハ一尺三寸の 灌佛蓮臺 門前より六尺余

の坐像三年の二月十五日ハ灌佛會として蓮臺の前より大簀を焼てより乃疫災を避んとす此夜参詣人市中近在をいそげ群集駭く世俗此佛の為と當寺を濡仏とりの

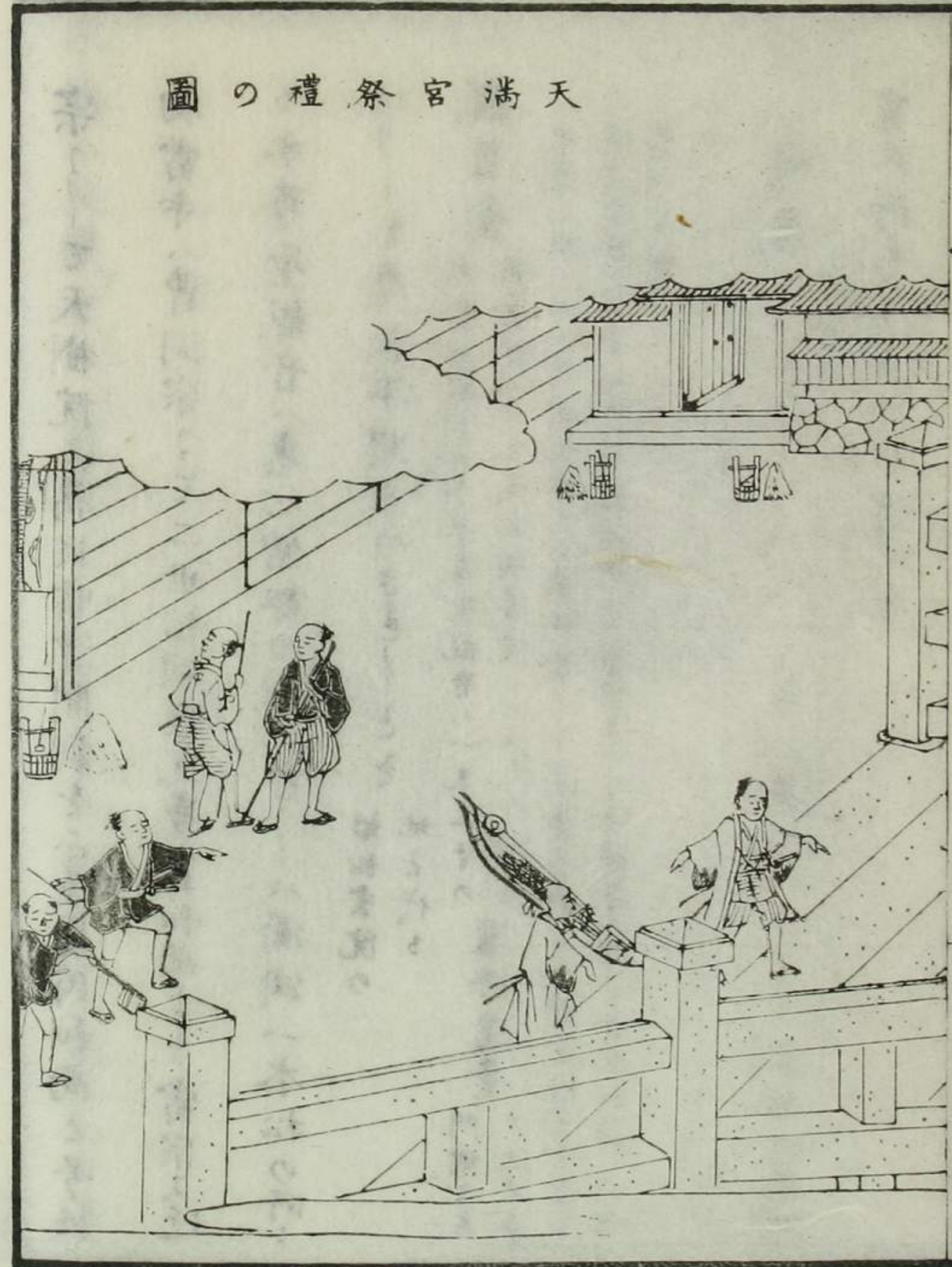
三江晴嵐 いろへ八江をき八景の一として金谷古天神

宮の所よりといひ傳へり



八  
秋  
西  
屋  
藏  
版

圖の禮祭官滿天



八  
秋  
西  
屋  
藏  
版

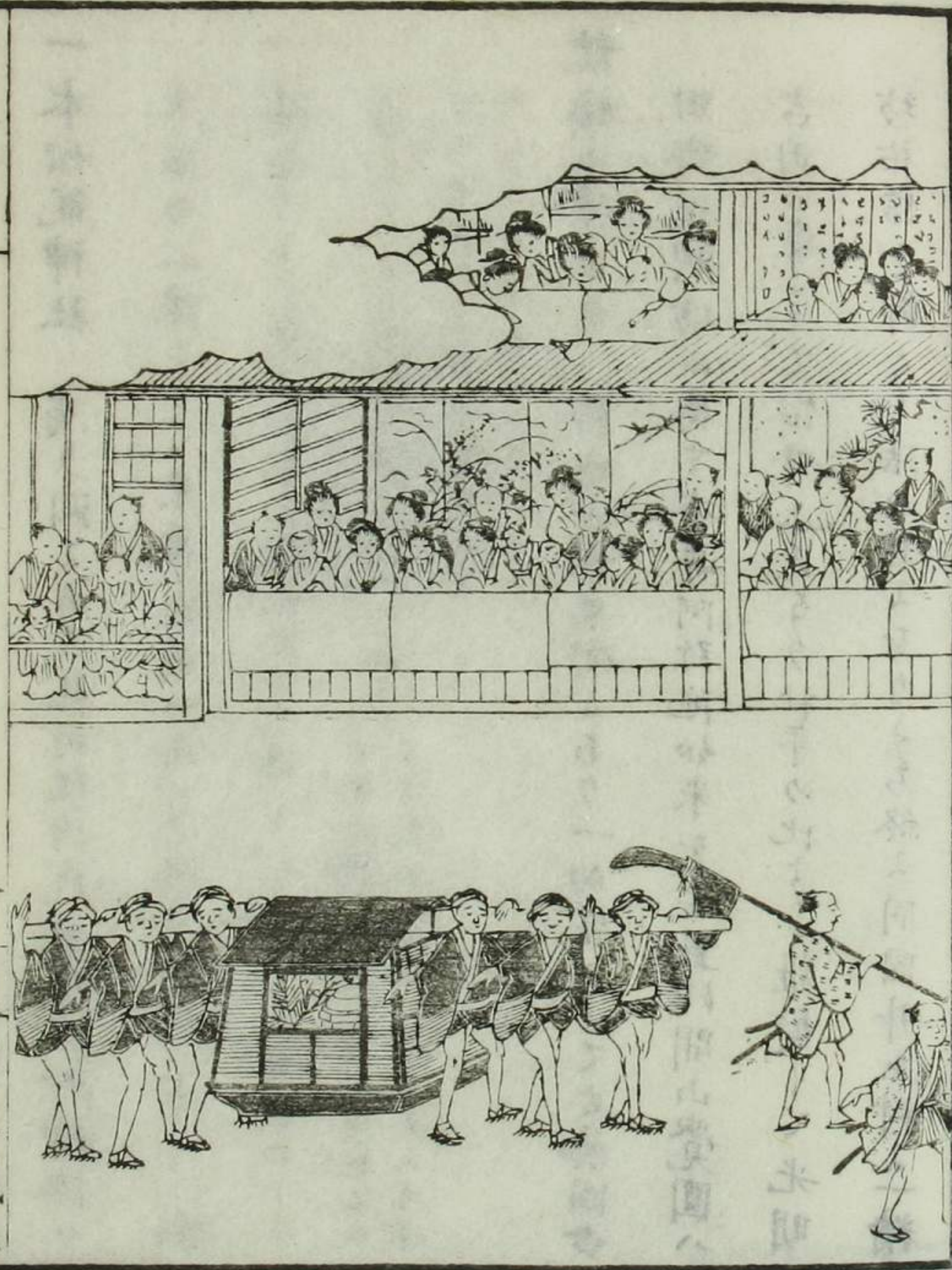


九  
 大  
 五  
 聖  
 歳  
 反

二 其



九  
 大  
 五  
 聖  
 歳  
 反



十  
水  
西  
屋  
成  
版

三 其



春  
長  
久  
宮  
山  
子  
日  
音  
野  
同  
夜

水  
西  
屋  
成  
版

一本松荒神社 濁り淵あり社司佐伯氏奉祀す御神体ハ

木石の二像ありて東帯衣冠の御装束之當社ハ舊より勸

請せしものとしゆれと傳記に於て詳しき終りて拜殿の上ニ

書ししものハ元祿二年再興とあり

古老物語ニ云當所を夫栗村といふ小名ありそハむろ大内尼子の西氏戦ひし時此一本松と夫かりていくらも止まりしと云

龍橋山蓮正寺 椿町中程東側ニあり一向宗ありて安藝國吉

田郷光明坊小属す本尊阿彌陀如来を安置に開山覺圓ハ

吉田の産ありて俗井上氏あり壯年の比より薙髮して光明

坊祐信を師と法の道ニをりし終りて同國井上村ニ精

舎を開きて住居せり後慶長の末此地を賜ひて創營すといハ

寺寶 懷紙一枚 梶井威胤二品親王の真跡

橋本大橋 橋本町と椿町の間ニ架す銘いまこ考へす 世俗橋本大橋

又ハ金谷大橋といふ 或ハ青苔橋銷魂橋といふと是も證とまら

りのをさす元和二年始めて架くといふ長四十八間ニより

ていろは橋といふ水上ハ奥阿武郡山田村神田の内より出て流數

をさすに幾邑とちくううをて川島太鼓灣ニ落合是よ

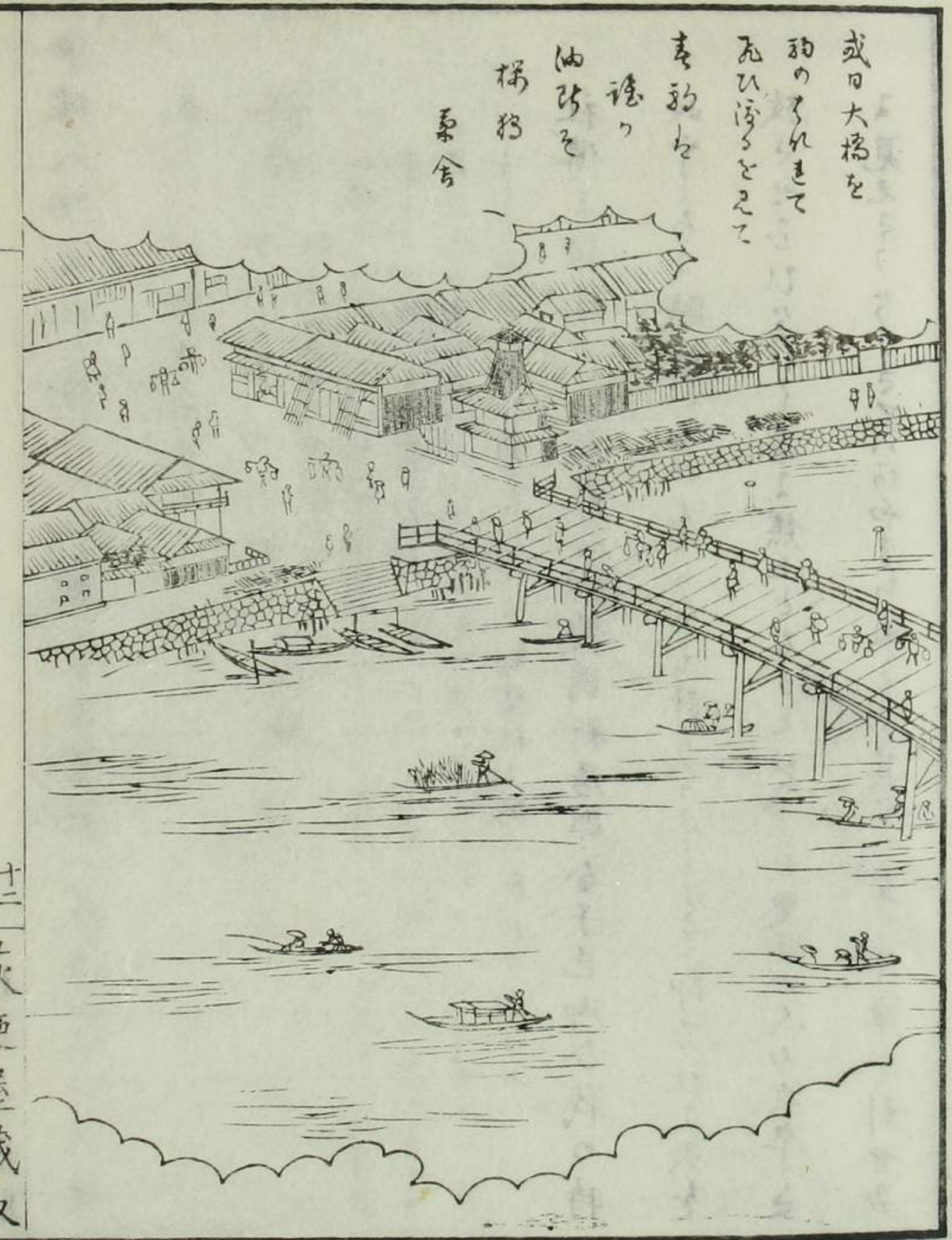
て松本川と二つに分れて此川筋ハ橋本より櫻江玉江を経て

終り海ニ入萩第一の大河たり川幅九百間余も有ぬへ

潮岸長橋延南通金谷  
 村牧童吹笛去樵者負  
 薪蹲踞酒青茅店春花  
 碧樹園往來休戀賞寺  
 啓報黃昏 南溟



或曰大橋を  
 幼のうれきて  
 瓦ひつくとて  
 春幼を  
 謡り  
 油所を  
 橋  
 桑倉



伊豫八幡宮社 江向の中程あり當社ハ菟五社の一として  
大宮司河野氏奉祀す

祭神

應神天皇 三女神  
仲哀天皇 神功皇后

相殿

岩尾天神

此岩尾天神といふも倉江濱浪うちきハ鼻標といへり岩あり山の岩  
窟より出現ましくく尊像さきゆゑハむろ御城地御開闢のみきり  
岩國より御手傳として大河をち堀きせられける時靈夢よ  
よりて此尊像を岩窟より得て 則當社に納り奉れりとす

社傳より曰往古 洞春公伊豫國新居郡金子邑御合戦の時  
此やろろ賊徒かれをくも計りくくを即て社に火を  
放とせむいづれを忽と焦土とちるといへとも更一人の兵卒と  
見えさうくりきてハちやまりぬとて其日ハ空しく軍を引せか



ふまゝ廿日あまりを経て御出陣ありてその所を通らせし  
ふに彼の社跡とばかりき所より御馬も進むことありて風ハ礫  
をうち雨ハ篠をつく計り之是ハ奇しく怪しく供奉の人々  
も心に心を動かし君恭惟とひひるはれ則神の崇ら  
む所ちんとて直に指麾せしめて出陣の意向一向  
宣せらるハ此ハいの一戦幸々勝利を得らふわくハ我城中の  
守護神と奉り尊むと御祈誓をそこめられ果  
て其軍ハ御勝利を得む即て賽ふて社をわくの如く  
御建營ありて崇敬せしめ猶御城中ニ遷させむ

御思のハありとくも其比戦軍の半されハ御本意お  
く過させむいハ大照公御心を継せむいて則當所へ御勸請  
ありて尊仰倍せられり此ハ慶長の末つくとをい

例祭ハ九月十八日より十九日まで廿 御名代奉幣使

ありて其式殊々嚴格ニ執行せしむ

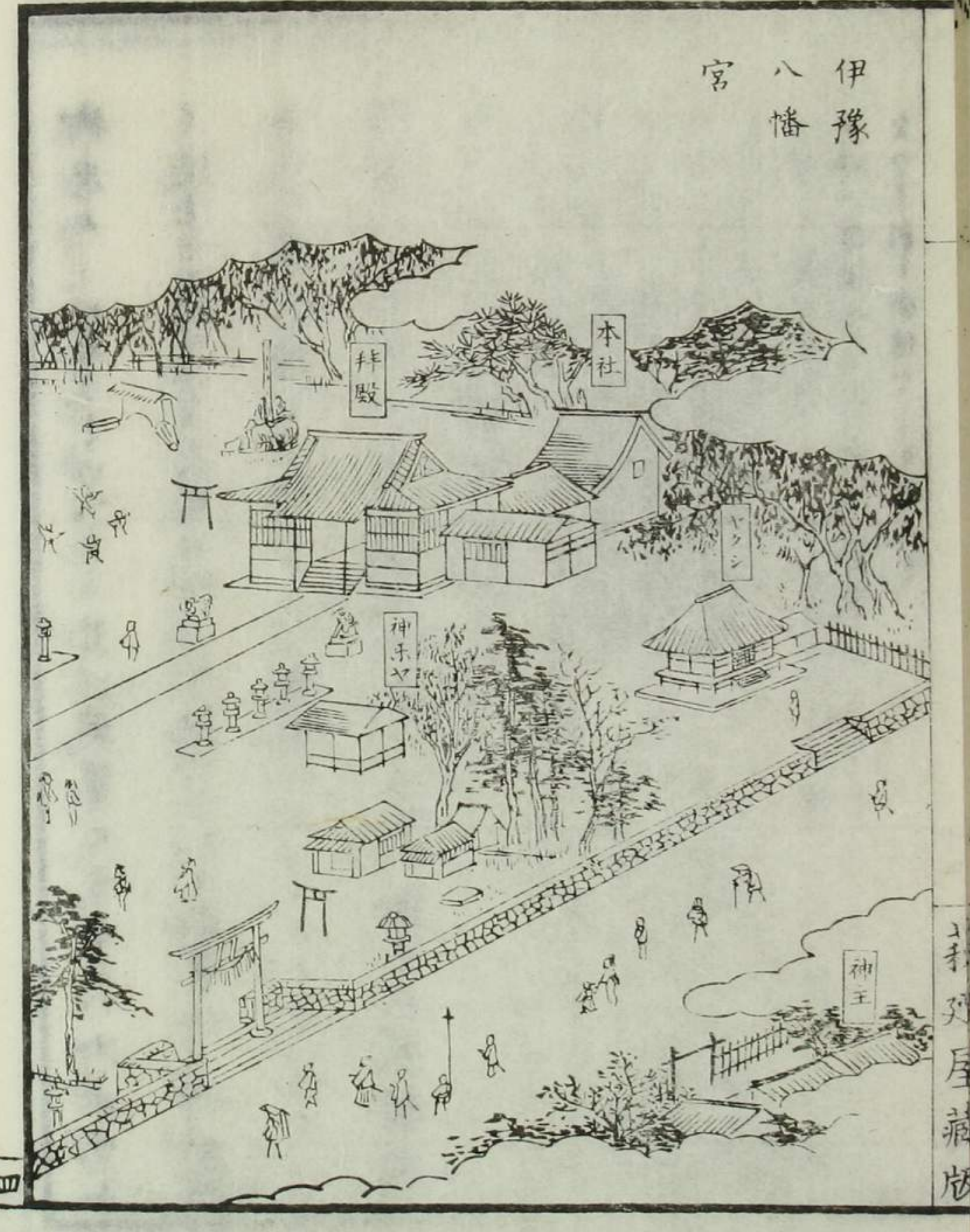
蛭子社 東門の左ニあり元禄十五年の勸請して和智知貞といふ人の  
守護神なり一惠比須の木像とて古老ものなり云む

一 大官司河野氏門を打叩きて肥前ハ内カをり音ちありれあり主  
早くもきけけて在宿ちり通らせむと奏者をりて書院へ請到  
る即て主出對ふ容ひも之ハハあやとありくうりり立  
鳥帽子ニ衾衣を着し三尺余の蛭子の木像床の上ニ安坐し是ハ  
奇特の靈像なりとて崇信せしむるに業祠  
をりし崇信せしむるに業祠





十五  
大  
延  
屋  
藏  
版



伊 豫  
八 幡  
宮

延  
屋  
藏  
版

四

鷲大明神社

本社の左にあり岩國家より勅請す。所は始め豫州にあり元和五年先弘法寺の地を移す後寛永七年當境内へ勅請す

龜宮

文祿年間小畑うらの漁父なりなりて網のうちに大きやうらる龜を得りて其を市中に出て是を齋んとすに忽ち病を發し辛苦頗り顛動す是ハ龜の崇りをんと恐怖しやてかの龜の矣をのやまひ祀れりとそ

藥師堂

本社の右にあり文明年中大内義隆の建立して當所の地主ニ大内家判物添書等今河野氏に存す當藥師尊像佛も之に恐らくハ神ちん此堂の傍に春日社ありといへり依て古春日の名あり

茅屋稻荷

鷲社にころれり小倉氏の鎮守神なり世俗をくらいるりとソのも此故なり

福源山徳隣寺

同所西に對し臨家の禪利して京師東福

寺末今天樹院

屬す末にめ藝州高田郡福原村にありて櫻

嚴寺といふ

其後承應年間當所に遷し建立して福原

家の菩提所とす

始ハ丁川島に寺地を福原廣俊の法名徳隣の二字を以て寺号とし旧地の邑号をとりて山号とハちらしと

兩峯山養學院

胎金寺と号す米屋町下にありて江向にいこらんとすり所あり天台修驗の兼學すてみやこ聖護院に

屬す本尊

胎藏界大日如来を安して開山を長賢上人とし小相傳小當寺ハ始藝陽に在て洞春公熊野成願寺の住職

長賢上人を

召されて御建立さりし所ニ慶長辛酉年當

を賜ひて

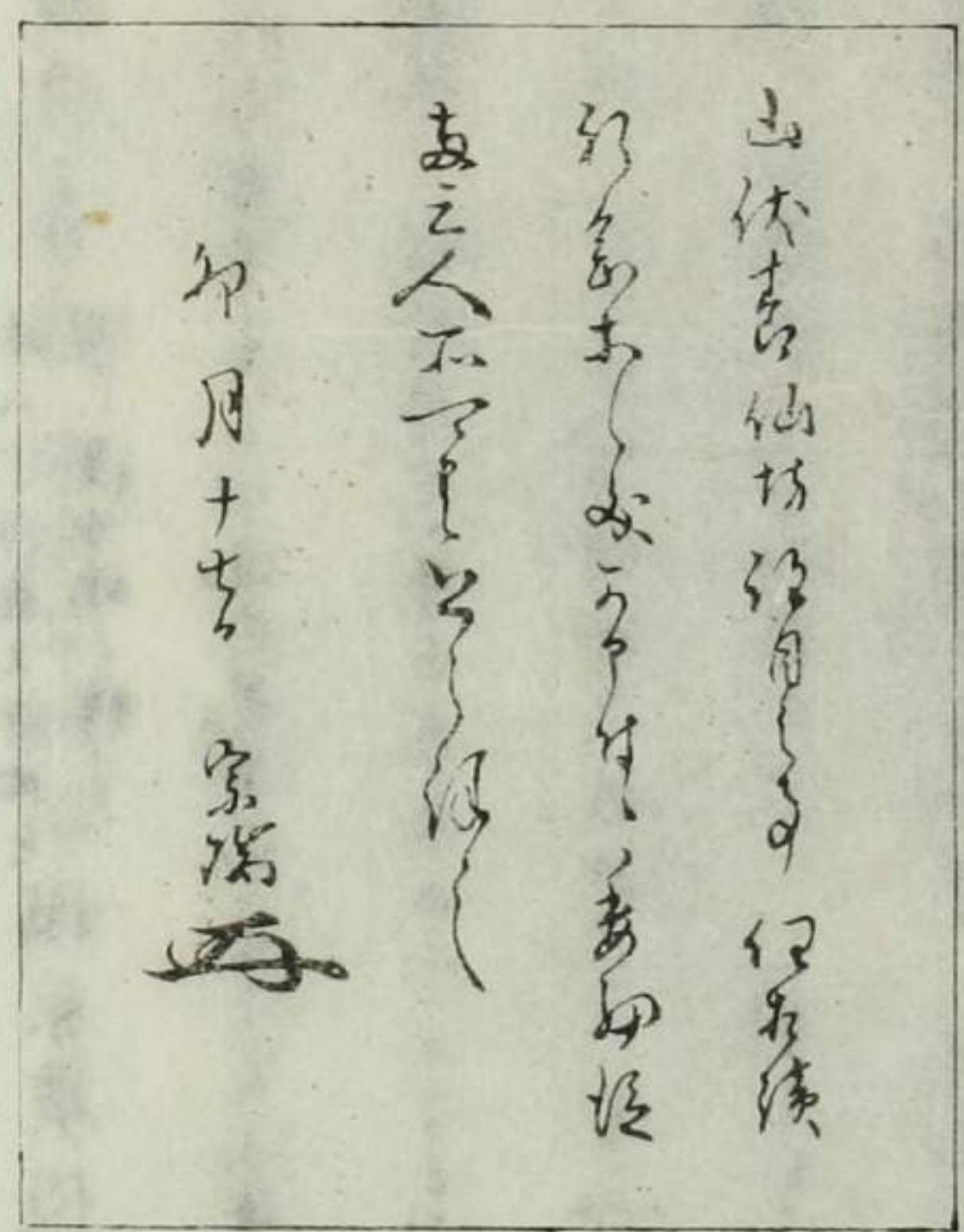
再建す慶長十七年までハ養學との書記して院とも坊とも其後養學院養學坊とかけり又堀内に養

院といふ

ありて院坊の爭論ありと云ふ

愛宕権現堂

上面より本尊ハ甲冑を著し、木像ニ右のこゝに劔をくり左に幡を持て白馬に乗し、五ハ所長四寸白馬三尺一十右の脇櫃ニ地藏尊毘沙門天をおき左に太郎坊不動尊を安す、外の左右に後鬼前鬼韋駄天王前に行者尊等、これハ金溜の極彩色にして厨子の中巖上ニ安置す



卯月十日 宗清

黄梅山隆景寺

河添の本町にて櫻江沙口よりあり臨濟派の禅窟として天樹院に属す本尊釋迦如来脇士文殊普賢ハ并に佛三大宮の作る所として開山ハ前真如西岩周和大和尚とて之ヲ始備後州三原に在り素米山巨真寺とて元来小早川家累代の菩提所ニ隆景公の御靈牌を安せしより以降則御名を以て寺号とて慶長年間當所より遷り又寛永年中御再創ありたり

隆景公御画像 一幅 筆者詳し

土居山秀岳院

江向より平安湖よりとて田畑あり

新編 歴代 聖蹟

古義の真言宗として満願寺に属す本尊に馬頭観世音を安

して此尊像ハ仏工堪慶の作りて 廻神河内守とて人の寄附あり脇士に不動毘沙門をたかく開山

ハ覺玄法印とし山始備前國に在るときハ三吉寺としひま

表白山元満寺としいつとを承正年間吉田郡山に遷して興元公

の御菩提所とすさめむ山後慶長年中當所之地を賜ひ即て

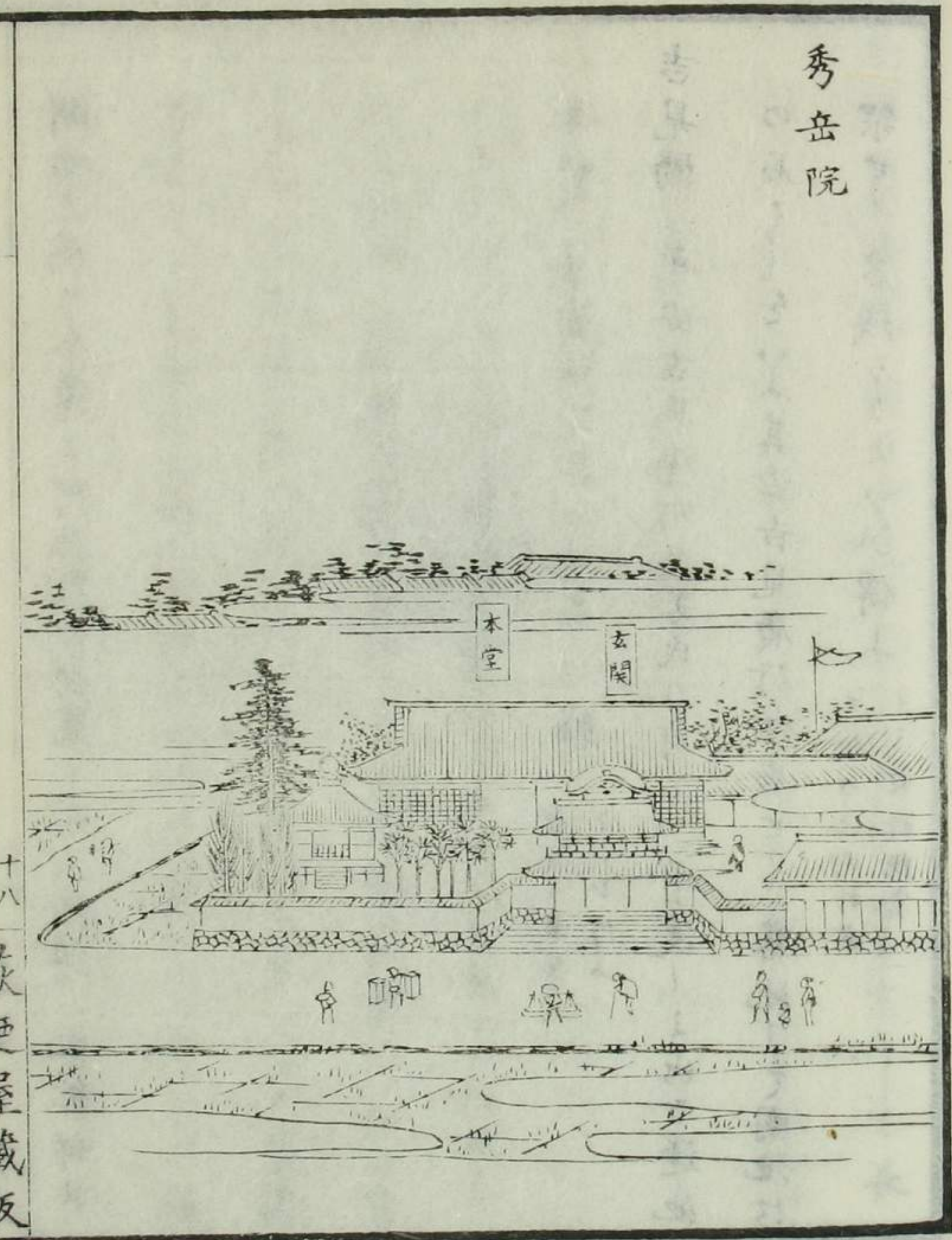
御法号を以て寺の号として天台宗を真言に轉せりとて

寺寶開山法印覺玄吉田郡山に召されて 興元公より一首の御哥を賜 くりて則短冊を藏す此外蜀紅うきの打布銀襦の柱卷等あり

薬師堂本堂の左より本尊薬師ハ聖徳太子御作りて極木の一根を以て 彫刻したるものと云ふ脇士虚空蔵十一面観音ハ慈覺の作と云ふ

浄殿山満行寺 同所後して則満行寺筋と稱し一向宗として光

秀岳院



明坊に属す本尊に阿彌陀を安置す開山祐傳ハ俗稱坪井

玄蕃といへり中古天正の頃内府信長公の幕下より一ウ故

ありて御當家ニ属し教度の合戦ニ勲功を著しける豪傑

たり後終ニ鬢髪を薙て吉田の庄上殿山と云處に一字を營

みて春秋をかくるる慶長中當所ニ来りて再建する所なり

寺寶 法華經隨華功德品 一軸 管公の真筆ニ  
といひ傳ふ

吉見橋 平安古馬場町久芳氏の角より中渡しに出入る蓮池

の石を以て其古吉見廣行住居せし舊地とて園池に

架せし名残りなりといひ傳ふ 元和の比御打果  
して家断絶す

高輝山安養寺

同所より一丁あり西にあり浄土宗より長

壽寺に属す本尊阿彌陀如来ハ佛工春日の作る所より開山

と立空接道和尚より和尚接道ハ筑州博多の産ニ慶長九

年當所よりきりて一字を建立し初め天長山安養寺といひ

とて五世廓道和尚より今の山号に改む又當寺ハ遊行上人

回國遊化のきりて火除の寺と定められしなり

庚申坊

同所本町一丁目中程東の側にあり當寺ハ四宗

法相  
三論

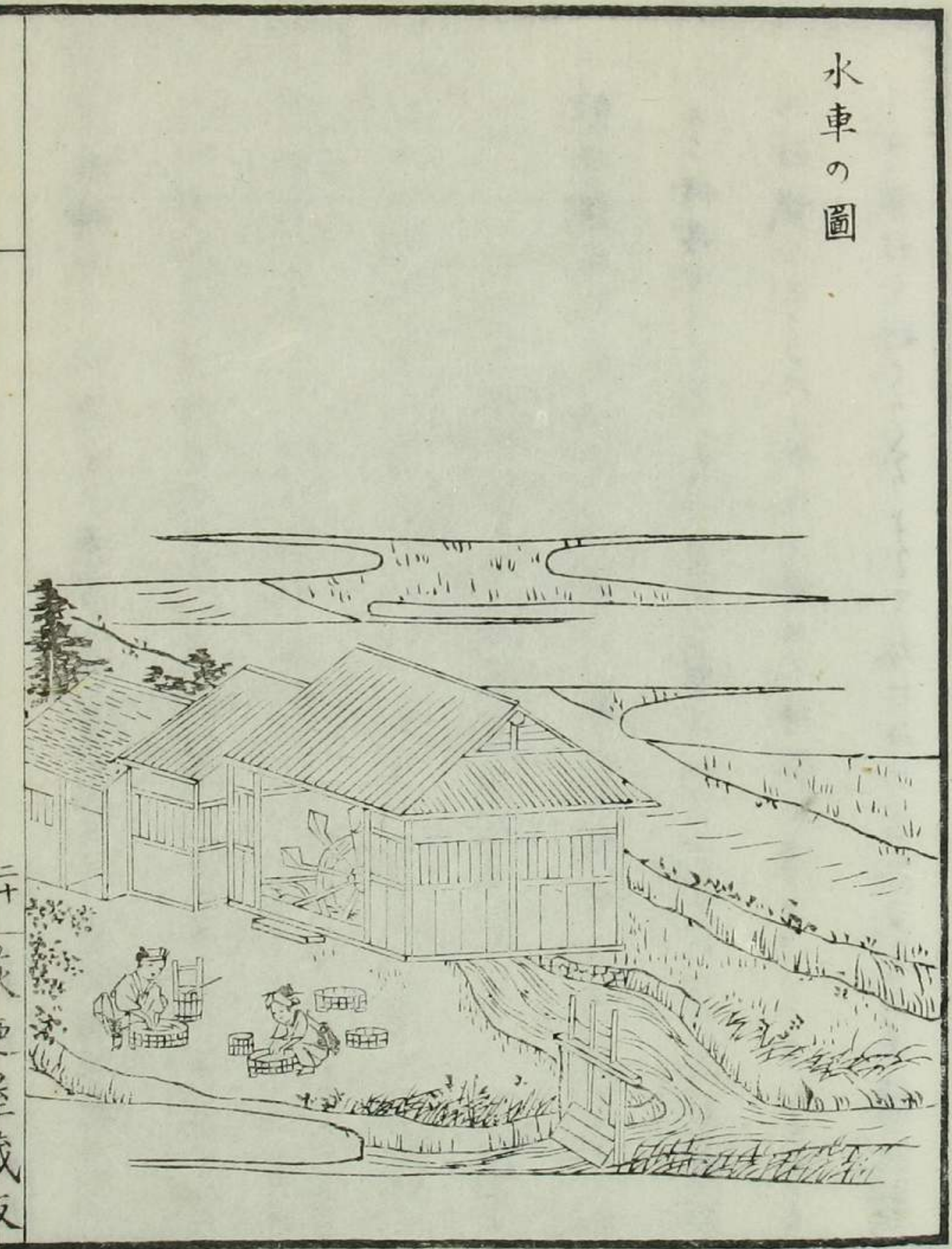
天台  
真言 兼學の道場より浪速の荒陵山四天王寺敬田院に

属す開山ハ及深法印より近比天台宗を専らんとす本尊を

青面金剛の木像より弘法大師の作といふ傳記詳うある  
に永祿年中の草創ありといふ

慶安橋 田中社裏門より新堀より河の川に架す慶安年  
間此橋をかちられし依て此号ありと云然はあれ慶安年  
中よりいまだ新堀川に石懸らるゝ溝ありてそれ  
架しより小橋を慶安橋といひしを後新堀川出来て新に  
けられし橋も旧よりて名を負せしからん  
慶安五年坊画図を  
近  
頃道の傍に水車を設くよりて世に水車筋とあり稱す  
或人云  
鳥田主  
巷ありハ湯浅主巻といふ人日毎に此道を通ひて河城に  
かゝりよりて人皆ケイアン繩をもちつくりといひてり

水車の圖



田中荒神社 同所より東方一丁をこにあり 世俗田中社といふ

又一本松荒神社といふものあり へ當所より大松一本ありて枝

葉繁茂せしより 終り地名ともなりたり

或云當所の萩市中央  
とて一株の大松を栽し

社司吉屋氏例祭ハ九月廿七日より廿八日までとす 相傳ふ當社を

いへ江向地面の北よりありて享徳寺の鎮守神なり 五穀豊

饒守護神として當所へ遷坐する 奉り即拜殿本殿ともに公

より修營せしれり 初吉屋氏の春日社の大宮司として今伊豫社

の神職にあらるに小南氏の春日の神職を譲りしよりかゝると

して當社を賜りしよりして春日社の古証文を存す傳記廢

きて詳しきものは是より前のものなり 始ハ社坊に有し 由

舊記

夫田中一本松荒神者蓋自往古此地に鎮坐五穀豊饒之神

徳盛仁而福祿掌壽命神也故奉稱三寶大荒神子家之神道

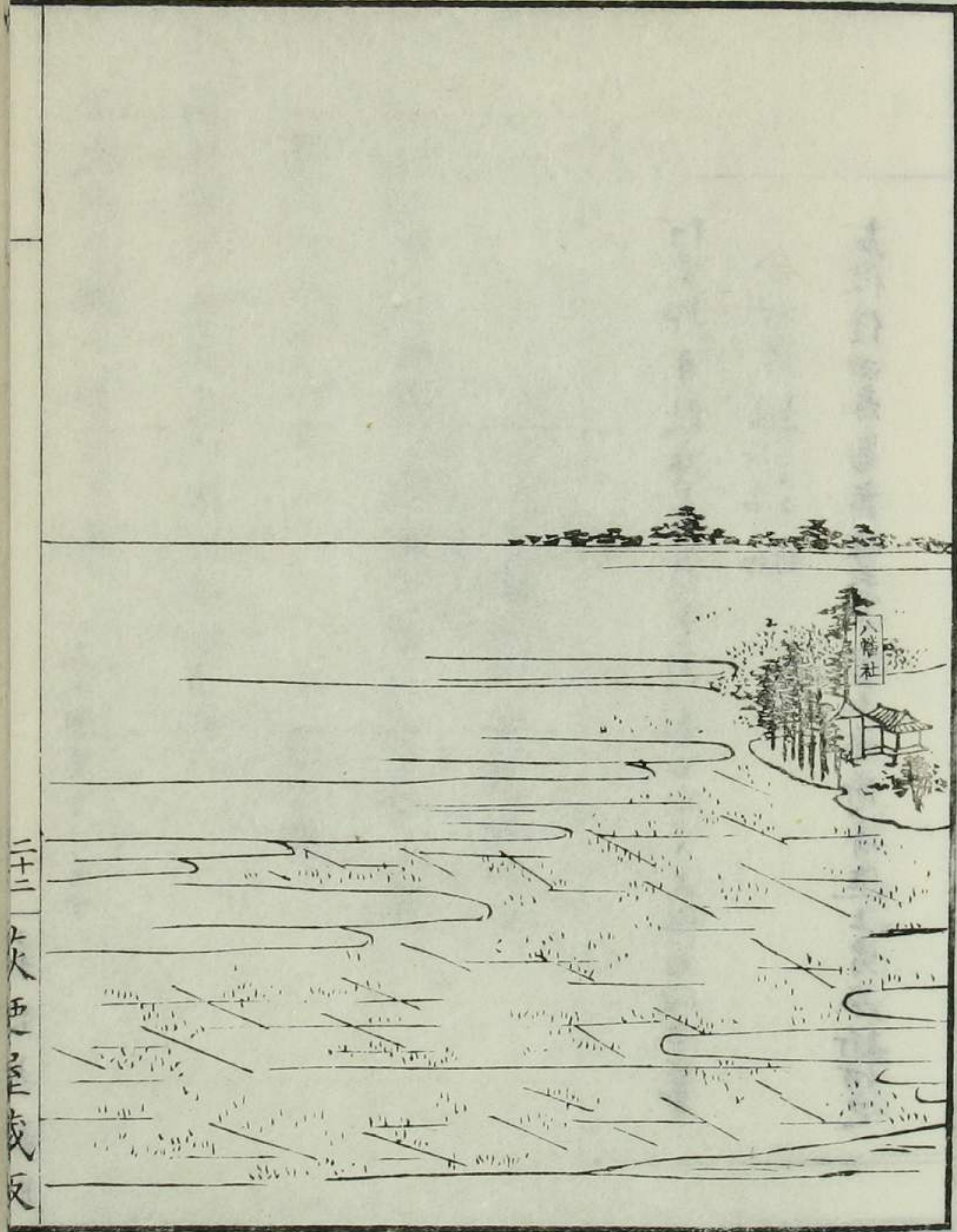
口訣大則普於天地小則於人間毛髮之數悉是荒神之明德也

外焉吉凶禍福内焉喜怒哀樂皆并無所不靡者荒神之威徳

也崇敬正則荒神正怠慢則荒神怒神慮之所使然也且境内

在稻荷之神社此神福五穀之精神也振古於諸願此神未嘗

不感應以是祭事莫怠慢云々 惟時慶安三年庚寅八月三日



二十二  
大正三年  
戊辰



一本松  
荒神社  
世々田中社と云

新築  
屋敷  
片

四



新延屋藏版

大般若經一部六百卷

三箱入與書を一五十

為父母往生兼為現當圓滿修治也

建久三年七月日

入道西證

抑此經者從吉敷庄奉票渡當庄春日宮安置

勸進入道康西沙弥

阿武郡牛敷庄足久新田之内春日之宮大般若經田之事

合拜者 善如名之内  
寺町ヒラタ一町

右彼任田者為高除春日宮仁為佛尊進上者亦新何之

領主不可有修考也然者天長地久之御祈禱任  
先例不可有相違狀如件

天明十一年己亥三月五日

三和 矩祐

山田 兼康

春日宮別書

安養寺

稻荷社

本社の右  
あり

金毘羅大權現社

新堀にて江戸屋横町あり

祭神ハ天狗の本像を安養相傳ふ當社始由田邊氏の鎮守

神よりを奇瑞多しとて人皆齋きかこみて終に法光院を  
かりて仮初に社を造營せり願主片河町々人某の一建立すと

いへり 田辺氏やき内の業祠ハ  
法光院の裏門の所とす

瑞現山法光院 古義の真言にて満願寺に属す開山法印源

秀ありて本尊十一面觀世音ハ山城國八幡村に住めり

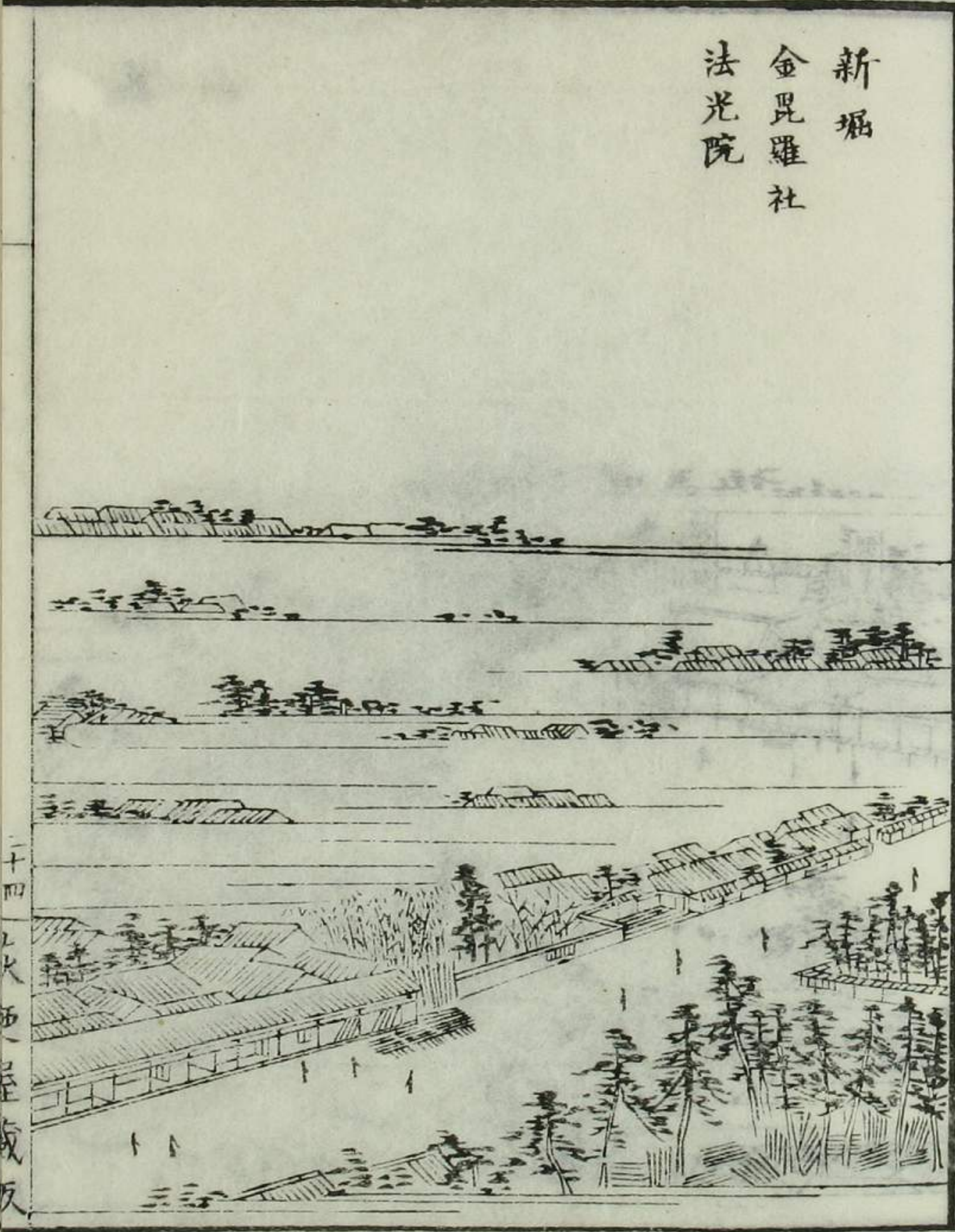
康尚といふ人の作る所あり 康尚ハ美濃の國の産原信といふ人の子  
りて八幡大井の示現により仙像を造

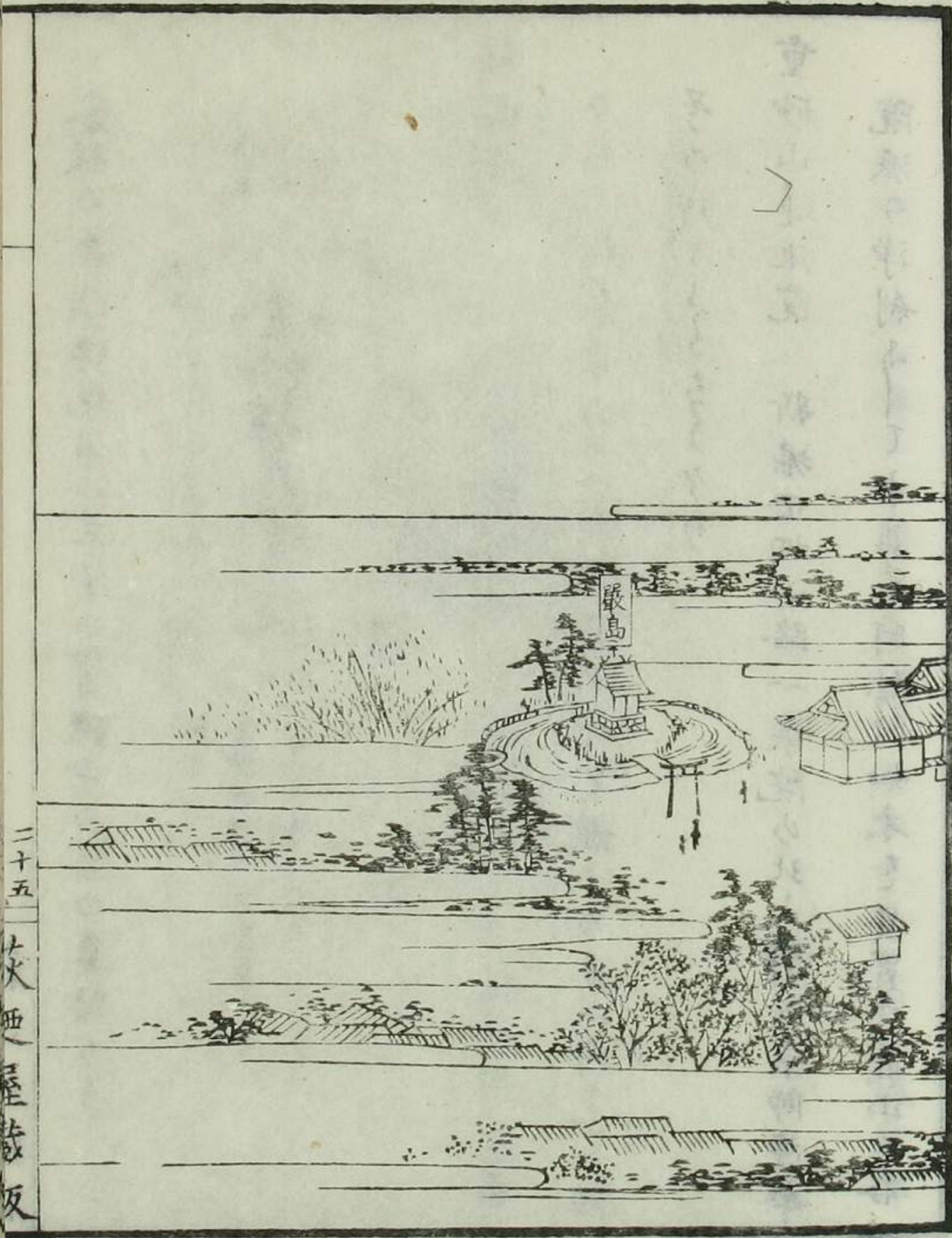
り初め一人こゆふ此人の作りを  
八幡大井の内作ると云仙像まあり 當寺ハ始め山口冰上山の境

内に在て大乘坊ととり慶長年中當所へ遷して今の

号に改む

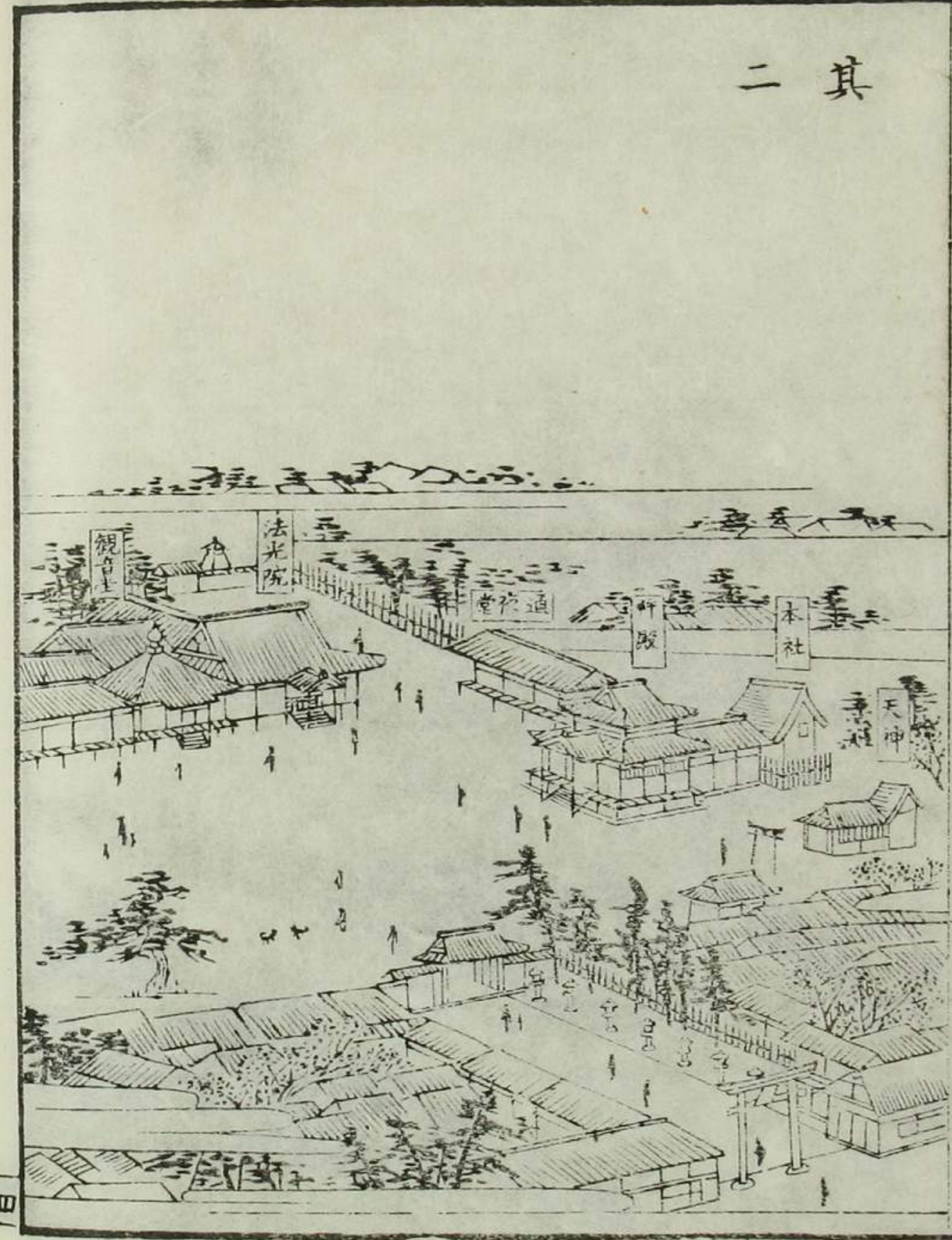
新堀  
金毘羅社  
法光院





二十五

大正屋敷坂



其二

四

大正屋敷坂

客殿の扁額瑞現山の三字ハ寶鏡寺の宮の真跡なり

華表  
1 掲  
3 所



銅金メツキ  
法鏡寺宮の御真筆にて  
集百十種より出づるなり

緞機屋下

いつきの御代より多々ん京都より織物師を召

されて御装束あるハ御能衣裳等を織しめむ所にて此  
号の残りも多かり

重砂山連池院

新堀田畑小路一乘院の北に隣り京師淨華

院派の淨刹なりて本尊ハ阿弥陀如来を安置す開山ハ吞

雪和尚といふ相傳ふ和尚ハ豊後國の産大友氏の家臣護摩津  
留大藏之丞といふりのちり文武の達者なり 大照公の召に應  
じ講讀御茶湯等ハ御伽に屢出たりんを其後江戸御在府  
の砌吞雪在江戸のより以聞しめされ即て芝の増上寺に修  
學せしめむ折に浄屋形へも登上せしよりいと御懇に  
漸く三年を経て當所より一艸舎を營て住居せしを  
君たむく艸菴と御成ありて御茶をも奉けり庭前を御  
覽しむひ折ら池の蓮りとあそやうなるを賞美させむひ  
やうて艸菴を蓮池菴とを仰られし夫より正保年間當

地を賜ひて則蓮池院とハ号けり

辨天堂

本堂の右ニあり本寺弁才天ハ弘法大師の作とシテ縁起ノ曰  
夫弁才天女天摩利支天ハ智仁勇三徳ノ尊神なり此弁才天  
ハ弘法大師の作して平相國清盛入道の守護神なり一平氏の一門壇  
浦入水のときとシテ海ニ入て此濱辺を漂へりて吞雪高僧諸國修行々  
折の折らしかのほまべを通りて真砂の中ニ弁才天の面の見へり  
々々をとりて懐てまて萍水浮雲と所定かひかくして津國兵庫法  
界寺ニ参詣し仏殿を拜せしに不思議なる事本尊弁才天女骸のこよて  
首をハミエテ和尚則奇遇を感し直に寺僧ニ尋みて壇の浦の由来をとき  
此面を合せしとシテ山へくもあはれりて并契を合すり如く依て主信  
ニ此像を求めて持来り堂宇を建立して安置せし所なり云々

當寺再建棟簡左ニ一ナ

勅願所 淨華院末寺

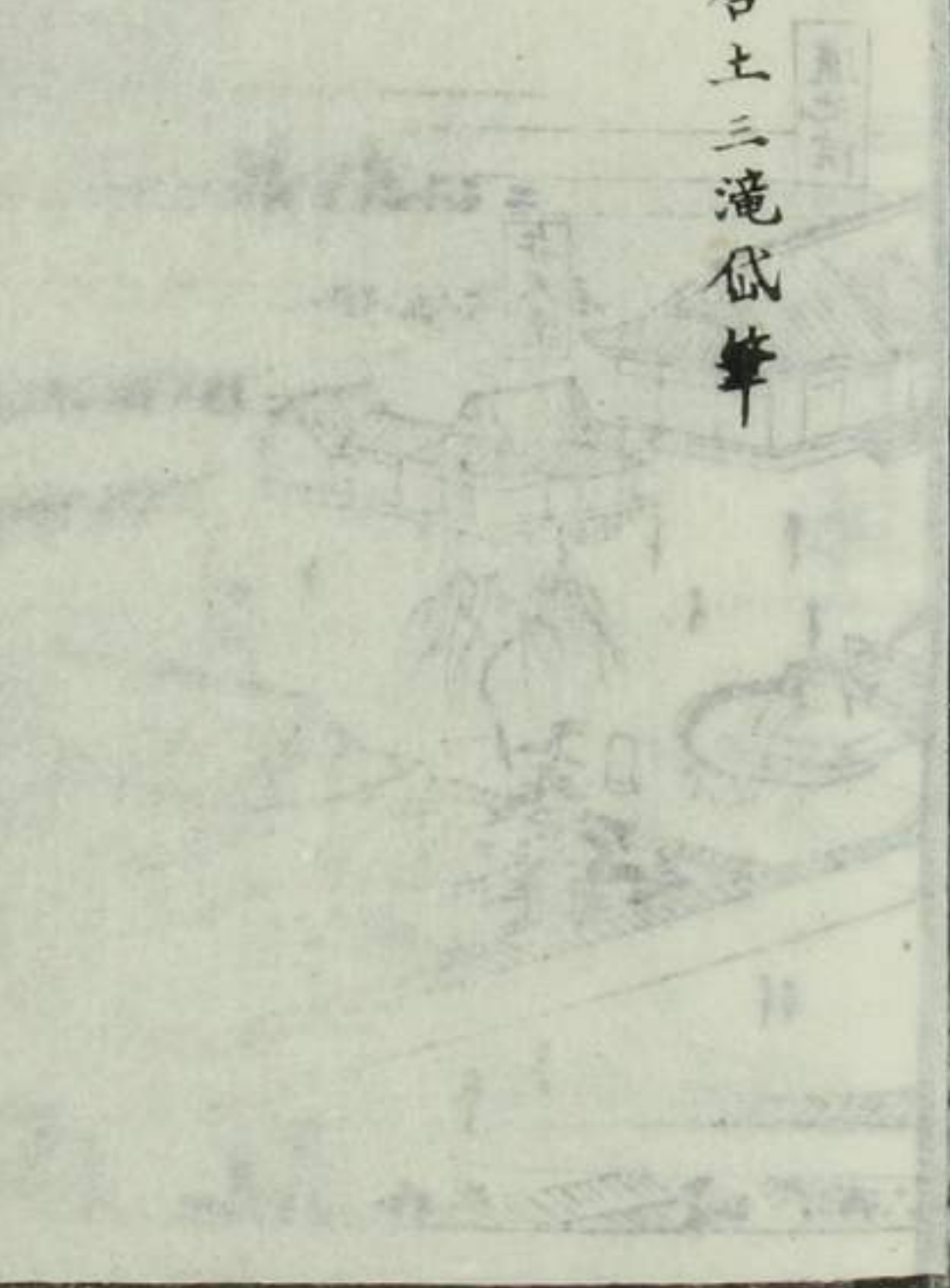
長州阿武郡菽庄 本山四十三代  
重砂山号從淨華院 依院宣再住緇林良故拜 朱  
院号者大寺大照院殿自讚 明曆第四成歲仲春日

蓮池院開基專譽吞雪長老

本堂 1 揚 3 所 額

重砂山

唐土三滝低筆

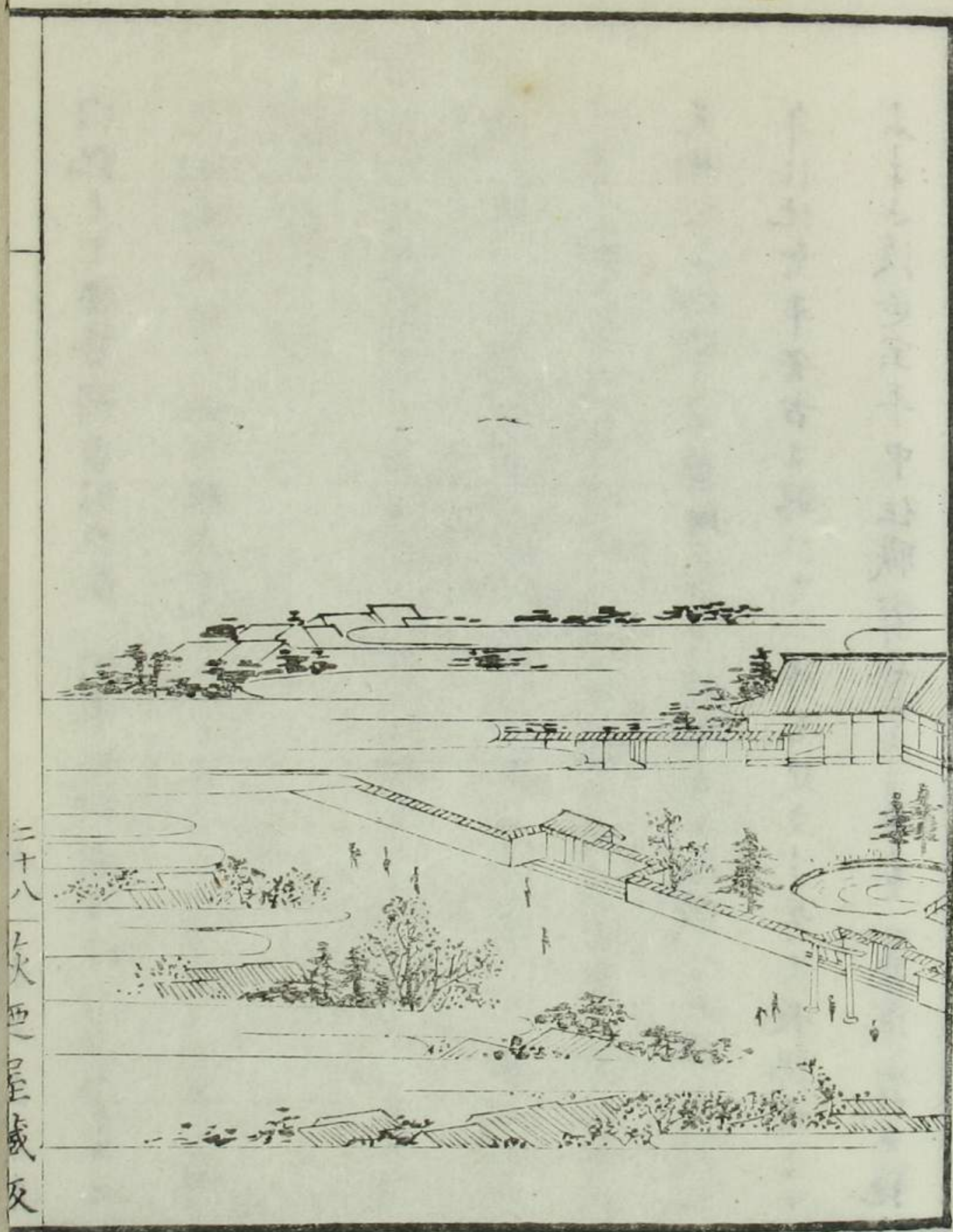


山田原欽墓

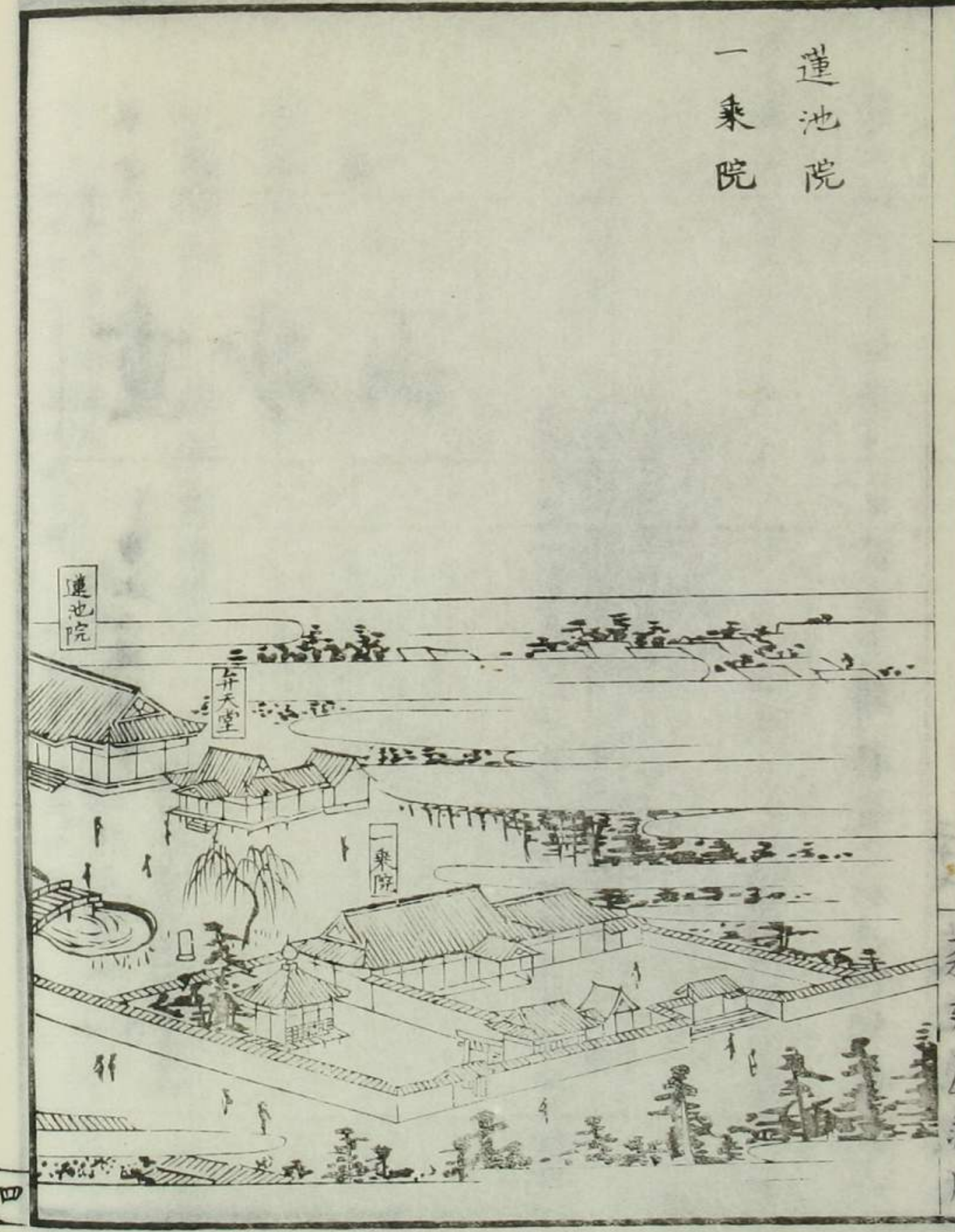
弁天堂の後ニありのつら石にて中ニ復軒山田原欽  
右ニ元禄六年癸酉七月十四日歿左ニ壽二十八歳  
響譽正學原欽居士とちりてむ

靈鳳山西光寺

同所ニ對ふ一向宗として明圓寺ニ属す本  
尊ハ阿弥陀如来として開山を釋祐玄といひ俗姓起美山



二十八  
大  
西  
屋  
藏  
友



蓮池院  
一乘院

蓮池院

弁天堂

一乘院

四

未  
建  
屋  
藏  
友

内記とて安藝國吉田の産 洞春公御側又仕へ人ありと  
そ初御弓町に地を賜ふ寛永の比當所より迂りて一字を野  
創りたりとそ

醫王山一乘密院 長福寺と号は田畑小路あり新堀河岸此  
角にあり古義の真言宗より満願寺に属す初藝州吉田  
にあり開山を真覺僧都とつの中興源政房宥美の慶長年間  
天樹公より御供して當地より満願寺に任職す其後萬治四  
年に地を平安古より賜ひて一寺を建立す号を長福寺とい  
ふまに後延宝年中任職宥算より号を一乘院と改め地

もきも當所より迂す客殿本尊不動明王の像ハ智證大師の作  
りて脇士ハ矜伽羅勢多伽らり

藥師堂

本堂の左にあり本尊藥師如来ハ惠心僧都の作り棟札に云阿  
武郡萩津平安古一乘院當住推大僧都宥算延宝三卯月日棟梁高  
原久兵衛大工高原又兵衛  
山縣忠兵衛とあり外畧之

萬松山明圓寺 瓦町相模屋呉服店の左に隣り一向宗よりて

藝州廣島明教寺に属す開山ハ祐甫字ハ教圓と号す本尊阿

弥陀如来ハ御長二尺六寸の坐像あり

此本尊安藝の吉田にありて  
州舎に安置しより怪異あり  
寺記に曰其初め藝  
とて里民恐怖し信するものありて教圓を  
よとて得て守護し終り當所ハ持来れりとも

州に在て鎮西派の淨社より同國甲立邑高林坊住僧西

新堀  
相場所  
延宝八年新堀川  
出来享保五年植松



新堀川  
出来享保五年植松



三十一  
五十三

八丁丁野十三  
大平町山  
除香心未  
十六世高上



本願寺

願といふもの 福間氏某の先祖ありといふ 當寺に來り任職して宗風を改む

後慶長の中比當所を遷して建立せし所あり

寺宝 開山祐甫へ賜はる所の繪旨 一軸

御客屋 瓦町の東詰あり他國より使者等の來りしときの

客館あり

清光寺 西田町熊谷丁に在る左側あり一向宗にして京都本

願寺の末刹あり輝元公聖清光院殿の御遺言により慶長

九年防州山口に創設せし開山ハ京師興正寺十九世准高上

人ありて後十三年今の地に移さる

四

本尊阿彌陀如来毎年十一月報恩講の時ハ宗徒の老若日

夜参詣ひきも取らすいと賑はるり又門前の筋堀ハ延享二年

ハ其筋のゆるしを得て築きしものなり一寺ハ名譽といふ

へ

光善寺 東田町にあり真宗にして本願寺の末派あり本尊

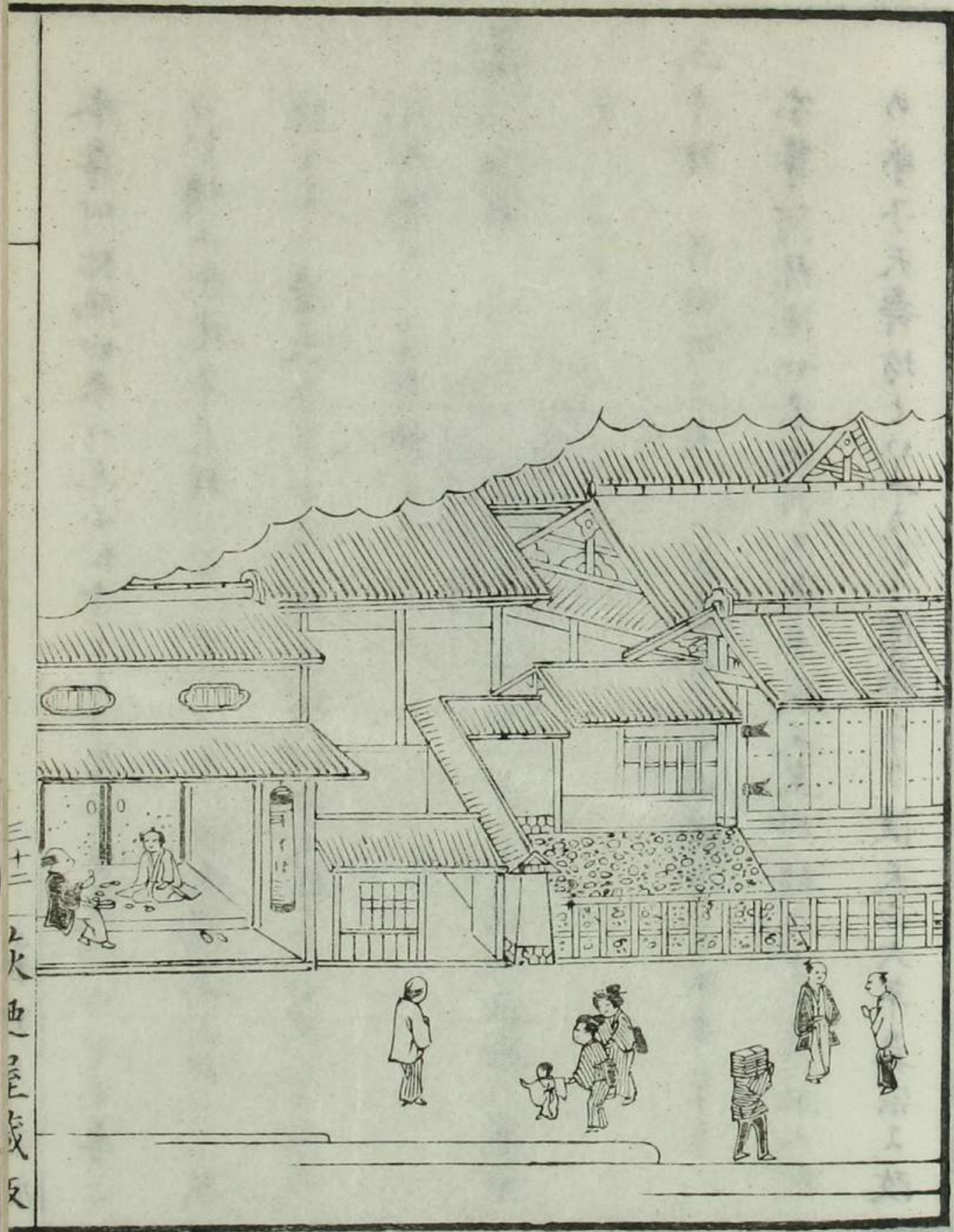
阿彌陀如来創建の年月詳らざるなり山口姫山にあり

禪宗の一刹ありて医王寺と号し元和年間改宗義地に移り

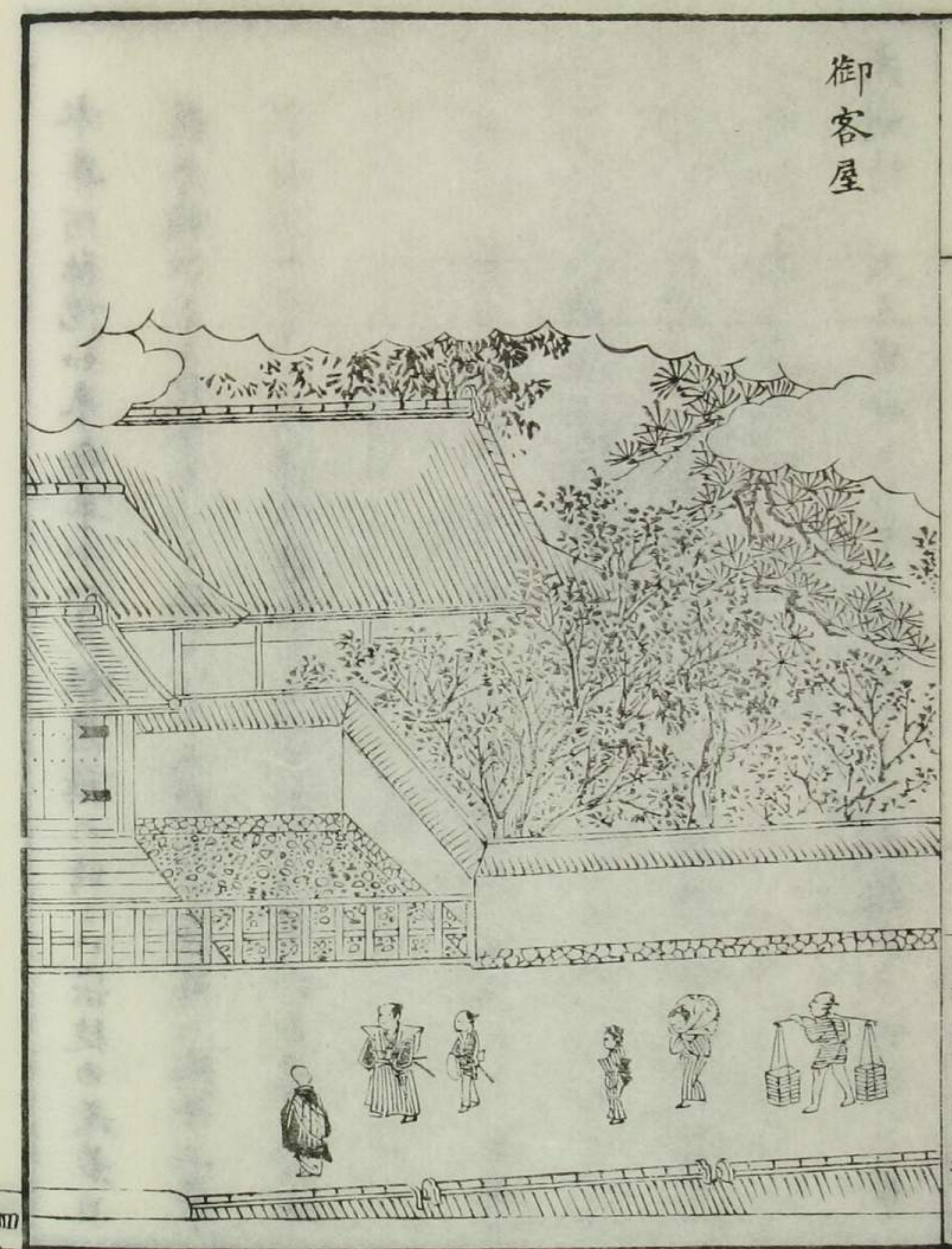
寛永十年今の寺号に改むといふ

光明坊 上五間町にあり一向宗にして本願寺の末派なり

三十一 大正五



三十二  
火  
色  
長  
反



御  
客  
屋

本  
町  
屋  
筋

本尊阿弥陀如来ハ元小松寺ニありて平重盛卿の守本尊ト  
ソハ傳ハ創建年月詳ララズハハ安藝國高田郡下小原  
村ニあり慶長五年本郡佐々並村一坂ニ移シ同九年今の  
地を賜ラリテ移轉セリト云

藤江落雁 一ノハ八重トキ八景の一ノテ佐世屋敷の裏手  
をいハリト云

三千坊 吉田町ニあり一向宗ニテ本願寺の末寺ナリ  
本尊阿弥陀如来大同元年平城天皇御願ホヨリ傳教大師  
の弟子天壽坊ト云ハルノ開基ナリ後天正六年真宗ニ改

め慶長三年八月今の地ニ移轉セリト云

瑞玄山報恩寺 津守町ニあり浄土宗智恩院末派ニテ常  
念寺ニ属ス本尊阿弥陀如来創建年月詳ララズハハ心  
徳寺ト号シ元和三年今の寺号ニ改むト云

端坊 惠美須町ニあり一向宗ニテ本願寺末派ナリ本尊  
阿弥陀如来創始年月詳ララズハハ開基明源俗姓大場空権  
頭景明後深州院北面の武士ニテ高祖親鸞上人の直弟ト  
ナリ城州山科ニ艸菴を結ビテ建武の乱ニ焼失セリ  
依テ渋谷興正寺を賴ニ一字を建立シ興正寺境内六坊の

内其端ニ住すよりて端坊と号す後故ありて破却せられ  
慶長八年本願寺に願ひ六條の寺内ニ端坊を建立す十三  
世明善ニ至り御城下ニ一字を建立せんことを願ひ即て今  
の地を賜へりといふ

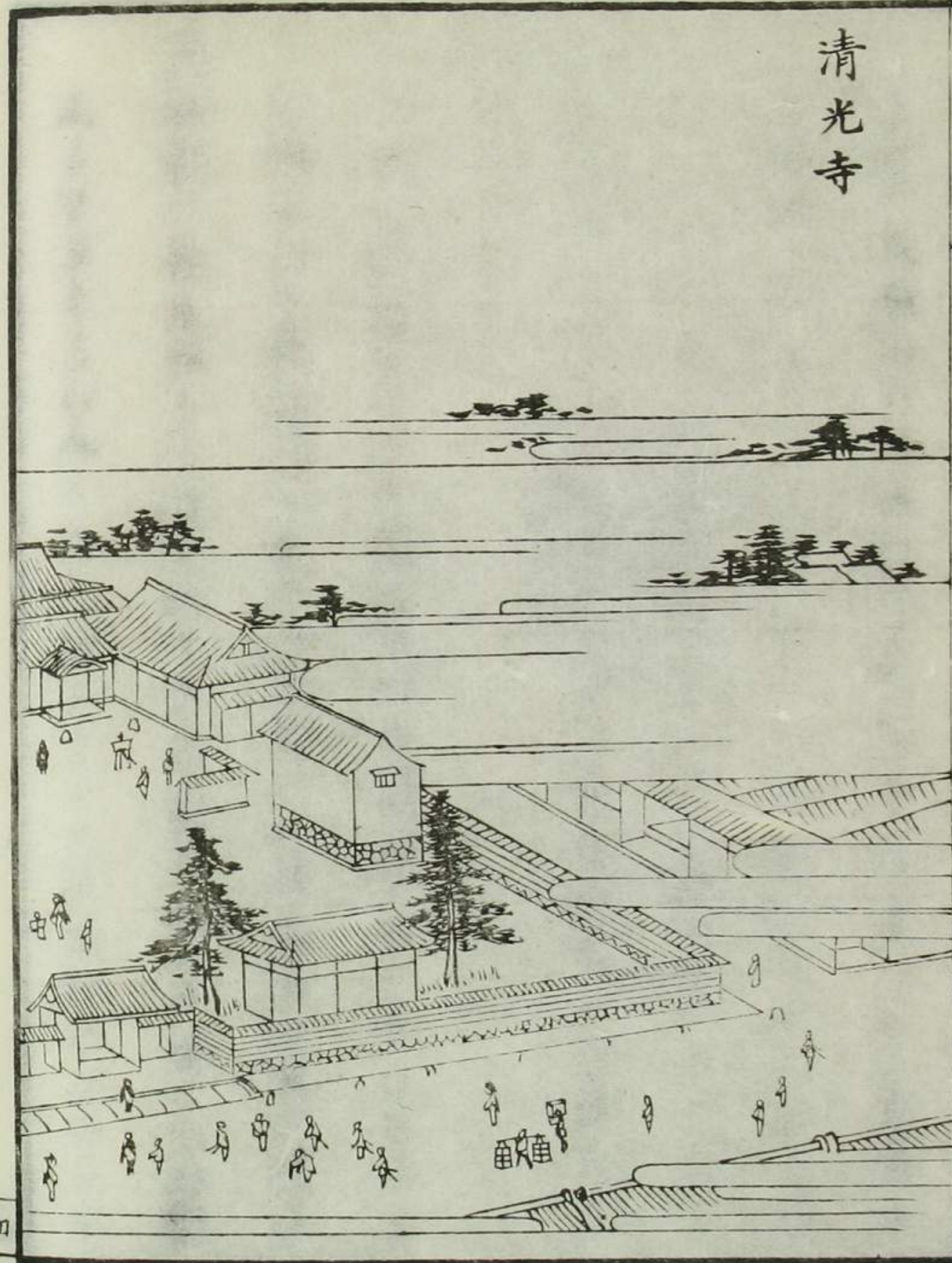
松原山法華寺 惠美須町ニあり日蓮宗なりて防長二州法  
華の第一座とす往昔ハ松原の中央にありてを以て山号と  
す今といふ開基詳々ならず慶長八九年の比ハ創始といふ  
相傳おもめ下総國正中山法華經寺六世日典當國より  
下り建立せしを以て其末派なりて後京都本法寺を本

山とせりといふ

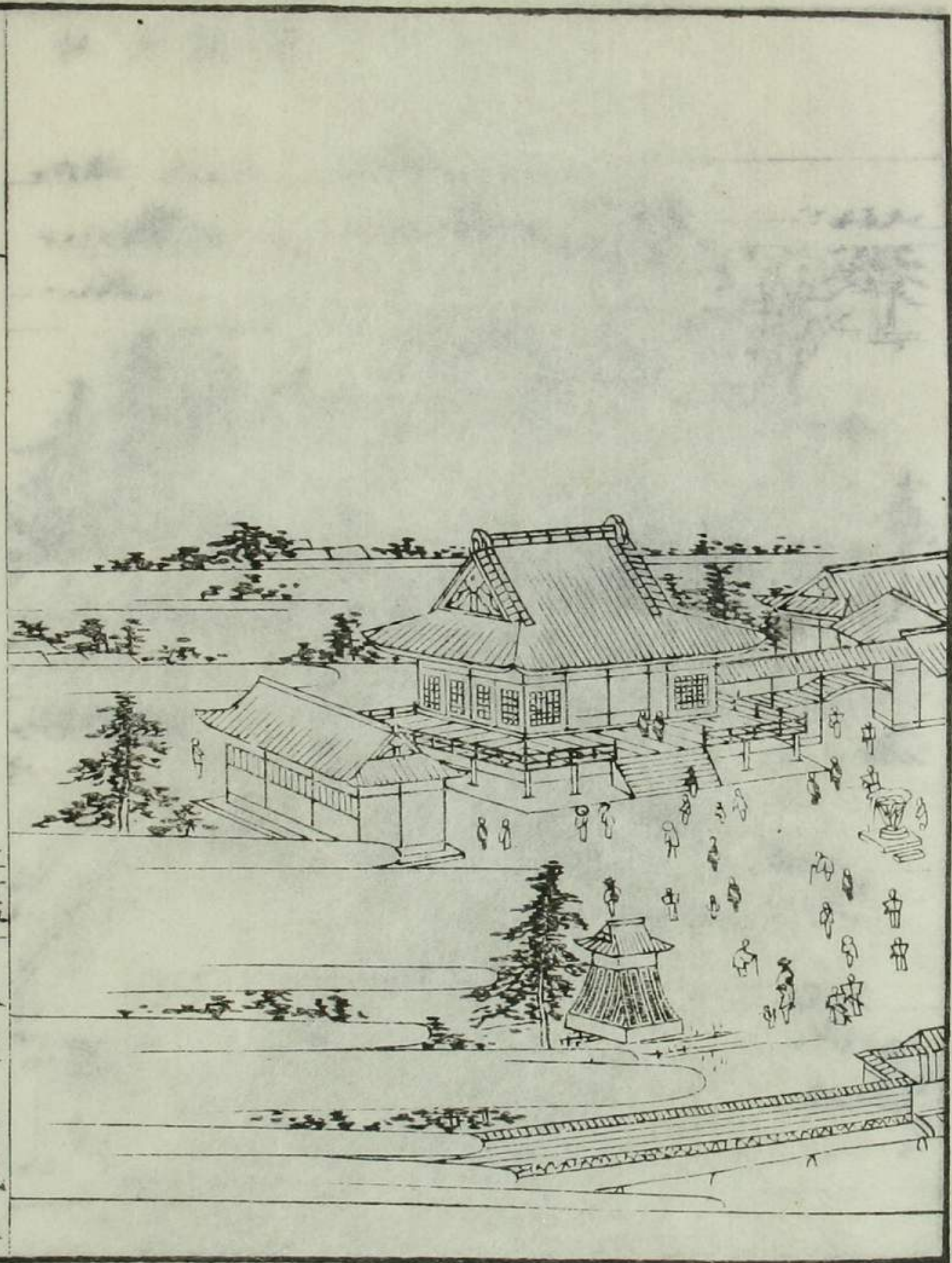
花松峠 塩屋町より北ニ向ふ少小高きありをいふ相傳  
小御打入の節花松と呼て地神經三昧結座頭を兼ね勤め  
一盲人御供せりある者此宅此ありていふゆゑなりと  
いふいふ

峠天神社 塩屋町の北ニあり祭神菅原道真公勸請年月  
詳々ならずめ防州山口ニありて慶長年中今の地ニ  
遷座せり例祭ハ九月廿三日廿四日の兩日にて市中殊ニ賑  
々なり又境内の井水ハ尤も清冽なりて遠近の人盛夏の

清光寺



新  
延  
屋  
藏  
版



三十五  
欣  
迎  
星  
藏  
版

峠天満宮



新築  
屋敷  
跡

候より来りて飲料に為すもの多し

涼松山長壽寺 北古萩町あり西山派の淨刹ありて京都

禅林寺粟生光明寺の西末派より開山一空上人夜欣和尚

よりめ山口長壽寺より住輝元公御お入の節召出され奉

長十九年此地より一字を建立隱居處とせしめられたるに

八江款名所圖畫卷之四終

子  
未  
延  
屋  
痛  
片

